

## 2021年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	国際版画美術館	歳出目名	国際版画美術館費
				事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)

## 1.組織概要

組織の使命	優れた美術作品に触れる機会、および学習、創作、発表を通して美術に親しむ機会と環境を提供します。また、貴重な文化財である版画作品を収集・保管し、市民の財産として未来に伝えます。	取 り 自 治 体 等 の	版画工房の一般開放。 (近隣の美術館で同様の取り組みをしているのは横浜美術館のオーブスタジオ版画室のみ) ◆年間利用者数 横浜美術館 642人(2020年度実績) 国際版画美術館 1,579人(2020年度実績)					
所管事務	◆美術作品等の収集、保管及び展示、講演会等の事業の企画及び実施に関すること。◆版画に関する専門的、技術的な調査研究及び情報の提供、美術に関する教育普及及び広報活動に関すること。◆市民の美術学習及び団体活動の援助、施設及び設備の貸出し及び維持管理に関すること。							
基本情報	根拠法令等 町田市立国際版画美術館条例							
		2019年度	2020年度	2021年度	施設の名称	町田市立国際版画美術館		
	利用料金収入 (単位:千円)	14,519	10,929	20,210	建設年月日	1986年8月1日		
	受益者負担比率	4.0%	3.3%	5.9%		2019年度	2020年度	2021年度
					有形固定資産減価償却率	35.5%	35.7%	35.6%

## 2.2020年度末の総括と2021年度状況

## ①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆感染防止対策を徹底するとともに、展覧会やイベントを開催する際にはインターネットやSNSをはじめとして様々な手法により国際版画美術館の魅力を情報発信するなど、来館者の増加につなげる取り組みが必要です。◆行政収入の増加に向けて、助成金などの積極的な獲得が求められています。◆多くの人に訪れてもらうため、美術館へのアクセス方法について検討する必要があります。◆新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館を契機として美術鑑賞の方法やイベント実施の手法についてオンラインの活用を検討する必要があります。

## ②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
取組状況	<p>◆積極的にSNSを活用し幅広い層に情報発信を行うなど、来館者数の増加に向けた広報活動に取り組みます。◆来館者の増加にむけて展覧会の期間に合わせた無料シャトルバスを運行します。◆オンラインでも美術鑑賞を楽しめたり、イベントに参加できる取組みについて検討します。</p> <p>○ ◆TwitterおよびInstagramを活用し、SNSでの情報発信を380回実施いたしました。◆来館者の増加に向けて展覧会開催中の土日祝とシルバーデーを対象にシャトルバスを47日運行し、延べ4,788人の利用がありました。◆大型企画展に合わせたオンライン子ども鑑賞会を2回開催し、延べ40人の親子の参加がありました。</p>	<p>◆「芹ヶ谷公園」芸術の杜”構想を実現させるため、(仮称)国際工芸美術館と連携した展覧会の実施や、「子どもと体験」というコンセプトを取り入れたプログラム等の実施を検討します。◆作品鑑賞動画の作成など、WEBコンテンツの充実により、多様な美術館の楽しみ方について検討します。</p>

## 3.事業の成果

## ①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
国際版画美術館展覧会観覧者数	人	目標	122,000	46,086	93,000	96,000	96,000	企画展および常設展示室ミニ企画展の観覧者数の合計
		実績	106,077	71,465	93,170		(2022年度)	
観覧料、施設使用料、特別観覧手数料収入	千円	目標	21,000	12,000	22,000	22,500	22,500	企画展観覧料、施設使用料、特別観覧手数料の合計額
		実績	14,519	10,929	20,210		(2022年度)	

## ②成果指標およびその他成果の説明

◆2021年度は6件の企画展と4件のミニ企画展を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響により4月25日から5月31日まで臨時休館となりましたが、年間の展覧会観覧者数は2020年度より21,705人増加し目標を達成しました。また観覧料や施設使用料などの収入も9,281千円増加しましたが、目標を達成することはできませんでした。◆東京2020オリンピック・パラリンピックに合わせて開催した「浮世絵風景画」展は観覧者数が11,000人を超え、展覧会図録が完売するなど好調だったこともあり、物品売払収入が2020年度より3,283千円増加しました。

## 4.財務情報

## ①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度	2020年度	2021年度	差額	勘定科目	2019年度	2020年度	2021年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	132,064	123,226	124,138	912	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	10,015	10,289	8,265	△ 2,024	保険料	0	0	0	0
物件費	145,238	132,144	131,841	△ 303	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	103,093	104,105	96,711	△ 7,394	都支支出金	600	0	0	0
維持補修費	6,256	4,002	2,623	△ 1,379	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	14,519	10,929	20,210	9,281
補助費等	5,407	12,352	4,199	△ 8,153	その他	15,492	9,275	9,486	211
減価償却費	56,285	56,285	56,285	0	行政収入 小計(a)	30,611	20,204	29,696	9,492
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 331,524	△ 315,027	△ 313,568	1,459
賞与・退職手当引当金繰入額	16,885	7,222	24,178	16,956	金融収支差額(d)	△ 262	△ 238	△ 214	24
行政費用 小計(b)	362,135	335,231	343,264	8,033	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 331,786	△ 315,265	△ 313,782	1,483
特別費用(g)	0	7,600	2,689	△ 4,911	特別収入(f)	0	147,686	0	△ 147,686
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	140,086	△ 2,689	△ 142,775	当期収支差額(e)+(h)	△ 331,786	△ 175,179	△ 316,471	△ 141,292

## ②行政コスト計算書の特長的事項

勘定科目	物件費	補助費等
決算額の主な内訳	<p>総合管理委託料 71,277千円 光熱水費 13,514千円 通信運搬費 7,170千円 など</p>	<p>事業協力謝礼 1,528千円 講師謝礼 844千円 「ゆうゆう版画美術館まつり」負担金 672千円 など</p>
主な増減理由	大型企画展の開催が2020年度より多くなり通信運搬費が増加したものの、委託料が減少したことなどから、全体では303千円減少。	2021年度は共催で開催した展覧会がなかったため、展覧会負担金が7,860千円減少。補助費全体では8,153千円減少。
勘定科目	維持補修費	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	<p>空調機二方弁交換修繕 806千円 無停電電源装置交換修繕 350千円 給水管漏水修繕 239千円 など</p>	<p>物品売払収入 5,146千円 芸術文化振興基金助成金 1,184千円 花王芸術・科学財団芸術文化助成金 1,000千円 など</p>
主な増減理由	高額な緊急修繕対応が減少したことから1,379千円減少。	助成金獲得額が減少したものの、物品売払収入が増加したため、全体では211千円増加。

## ③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
国際版画美術館年間入館者数1人あたりコスト	人	2021	125,988	2,725	△ 407	年間の入館者数が増加したため、入館者1人あたりのコストは2020年度よりも407円減少いたしました。
		2020	107,022	3,132	897	
		2019	162,035	2,235		
開館1日あたりコスト	日	2021	275	1,248,233	△ 103,505	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休館の期間がありました。年間の開館日数は2020年度よりも増加したことから、1日あたりのコストが2020年度よりも103,505円減少しました。
		2020	248	1,351,738	144,621	
		2019	300	1,207,117		

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	20,189	23,298	3,109	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	12,967	12,967	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	1,127,996	1,072,140	△ 55,856		賞与引当金	7,222	10,331
		土地	0	0	0		その他の流動負債	0	0
		建物(取得価額)	2,258,181	2,258,181	0	固定負債	210,820	203,827	△ 6,993
		建物減価償却累計額	△ 1,393,197	△ 1,449,053	△ 55,856		地方債	112,242	99,275
		工作物(取得価額)	263,012	263,012	0		退職手当引当金	98,578	104,552
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	231,009	227,125	△ 3,884
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産	2,446,226	2,561,700	115,474
		土地	0	0	0				
		工作物(取得価額)	0	0	0				
工作物減価償却累計額		0	0	0					
無形固定資産		0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0	純資産の部合計	2,446,226	2,561,700	115,474	
	その他の固定資産	1,549,239	1,716,685	167,446	負債及び純資産の部合計	2,677,235	2,788,825	111,590	
	資産の部合計	2,677,235	2,788,825	111,590					

⑤貸借対照表の特徴的事項

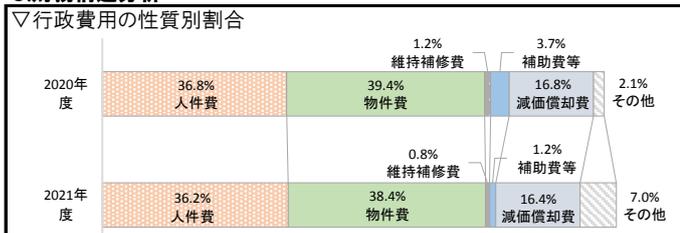
勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	美術館 2,258,181千円	屋外彫刻4点 263,012千円	収蔵美術品 1,615,827千円 定額運用基金 100,000千円 'トグラフ用プレス機 858千円
主な増減理由	減価償却により、55,856千円減少。	美術工芸品類は減価償却対象外資産。	博物館からの大津絵の所管替えなどにより、収蔵美術品は167,874千円増加。プレス機の減価償却により428千円減少。

⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	29,697	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	280,799	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	12,967
行政サービス活動収支差額(a)	△ 251,102	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 12,967
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 264,069
				一般財源充当調整額	264,069

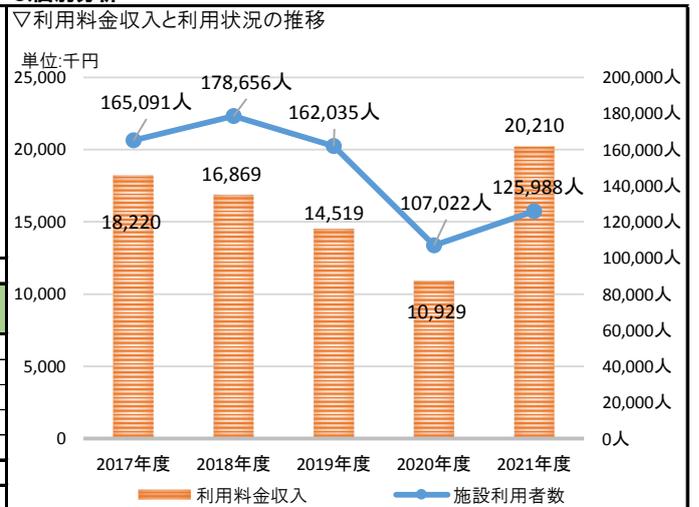
5.財務構造分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2021	2020
						合計	合計
管理事務	6.2			0.1	0.7	7.0	7.5
展示事業	5.3				0.9	6.2	5.4
ハイビジョン事業						0.0	0.0
普及事業	2.4			0.7	1.2	4.3	3.9
						0.0	0.0
2021年度 歳出目 合計	13.9	0.0	0.0	0.8	2.8	17.5	16.8
2020年度 歳出目 合計	13.0	0.0	0.0	0.0	3.8	16.8	

6.個別分析



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆2021年度は2020年度と同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休館の期間がありましたが、大型企画展の開催数が2020年度よりも一つ増えたことなどにより年間の観覧者数が約30%増加したほか、観覧料や施設使用料などの収入も9,281千円増加しました。◆行政費用については、物件費のほか維持補修費や補助費等が減少しましたが、全体では8,033千円増加しました。◆行政収入については、助成金獲得額が減少したものの、観覧料収入や物品売払収入の増加などにより全体では9,492千円増加いたしました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため4月25日から5月31日まで臨時休館としたことから、春の大型企画展の開催日数が31日減少し、56日から25日となりました。◆館内消毒用及び来館者手指消毒用の消毒液のほか、飛沫感染対策用アクリル板の購入により261千円支出いたしました。◆臨時休館や感染拡大防止のため利用を中止した施設利用者に対する使用料の還付額が347千円となりました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆2020年度よりも観覧者数が増加したものの、新型コロナ感染症拡大前の水準までは回復していません。今まで以上に幅広い層に魅力が伝わる展覧会を開催するほか、展覧会やイベントを開催する際にはインターネットやSNSをはじめとする様々な手法により国際版画美術館の魅力を情報発信するなど、来館者の増加につなげる取り組みが必要です。◆行政収入の増加に向けて、助成金などの積極的な獲得が求められています。◆多くの人に訪れてもらうため、美術館へのアクセス方法やキャッシュレス決済の導入について検討する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆積極的にSNSを活用し幅広い層に情報発信を行うほか、オンラインプレスリリースを活用するなど、来館者数の増加に向けた広報活動に取り組みます。 ◆来館者の増加にむけて展覧会の期間に合わせた無料シャトルバスを運行します。	◆「芹ヶ谷公園」芸術の杜”構想を実現させ、(仮称)国際工芸美術館と連携した展覧会の実施や、新設される工房を活用した新たなプログラム等の実施を検討します。◆改修工事により老朽化した設備の更新やミュージアムショップの充実など、今まで以上に楽しめる美術館を目指します。

## 2021年度後半 作品収集状況

以下の作品が、2022年2月2日開催の2021年度第2回美術資料収集委員会で承認され、収集されました。

## ◇寄贈作品

No	作品概要	点数	評価額(円)
1	前川千帆 版画本	26	182,000
2	長谷川潔 銅版画	5	4,750,000
3	草間彌生 版画	5	38,631,269
4	和田誠 銅版画	10	300,000
5	黒崎彰 木版画	35	3,370,000
6	吉岡弘昭 版画	47	1,415,000
7	第46回全国大学版画展美術館賞受賞作品	8	80,000
	( 計 )	136	48,728,269

## 2022年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

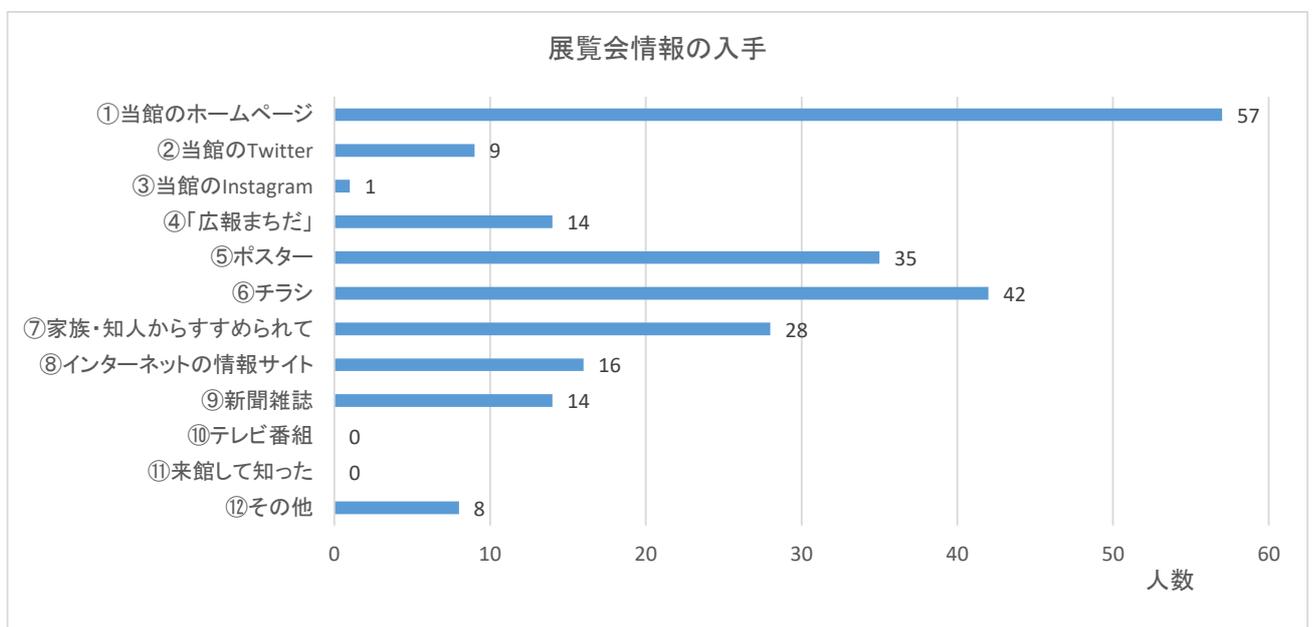
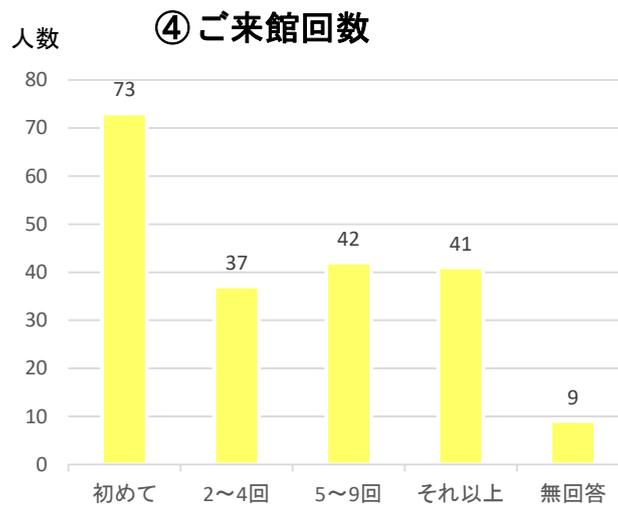
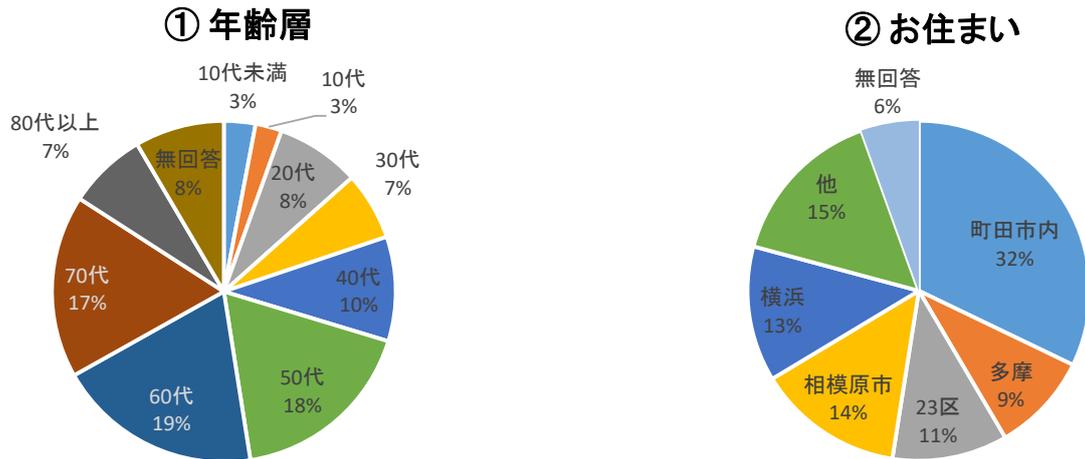
展覧会名	吉例浮世絵大公開！江戸の滑稽—幕末風刺画と大津絵— 田河水泡コレクションを中心に			担当者名	大久保純一、村瀬可奈		
会期	2022年3月12日(土)～4月10日(日)			開催日数	26日		
協賛・後援・協力	なし						
巡回館	なし						
展覧会概要	浮世絵には屈託のない笑いから福德への願い、世の中への不安や不満まで、人々の感情がユーモラスに描き表されたものが数多くある。本展では、漫画『のらくろ』の作者・田河水泡(たがわ・すいほう)が収集したコレクションを中心に、当館が収蔵する浮世絵の戯画や風刺画、大津絵など約140点を展示。幕末から明治にわたる激動の時代に、世相を描かずにはいられなかった無数の絵師たちの滑稽表現と、それを享受した民衆の本音を読み解いた。展示作品の多くは2020年度に町田市立博物館から移管された作品群であり、本展はその披露目の意味も込めて開催された。						
ねらい・対象	幕末から明治にかけての混乱の時代に制作された風刺画や戯画には、地震や感染症、戦争といった現代社会にも通ずるテーマが含まれている。国芳や広重、清親をはじめとする人気浮世絵師たちの機知に富んだ滑稽表現をとおして、当時の人びとの立場や思いを読み解く展示とした。またタイトルに冠した「吉例浮世絵大公開！」は、桜の開花シーズンに合わせて過去に数回開催されてきた展覧会シリーズで、今回も芹ヶ谷公園への来園との相乗効果をねらった。						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	講演・落語	3月13日(日)	田河水泡と「滑稽」—講演と落語—	新美琢真(川崎市市民ミュージアム)、三遊亭ぼん太(落語家)	60人		
	スライドトーク	4月3日(日)	館長によるスペシャルスライドトーク ※ギャラリートークから変更	大久保純一(当館館長)	42人		
	プロムナード・コンサート	3月19日(土)	ピアノとフルート 笑顔色づくハーモニー	笠原陽子(フルート)、 武原さつき(ピアノ)	155人		
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日			
	800円	400円	無料	・初日:3/12 ・シルバーデー(65歳以上無料):3/23			
	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	3,648人	2,104人	5,752人	5,202人	217人	333人	—人
	目標値	3,214人					
主な収入	観覧料収入		図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源		
	2,523千円		千円	66千円	千円		
事業経費	・講師謝礼 45千円 ・協力謝礼 110千円 ・作品額装委託料 498千円 ・ポスター等作成委託料 972千円 ・ディスプレイ作成委託料 506千円 ・設置・撤去委託料 460千円			2,591千円			
主な広報・取材等の講評	【テレビ】NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」、イッツコム地元NEWS、多摩テレビ「TTV-NOW」【新聞】読売新聞、神奈川新聞、産経新聞、毎日新聞、しんぶん赤旗、新美術新聞、タウンニュースほか 【雑誌】『サライ』、『小さな蕾』ほか 【ウェブ】ウェブ版「美術手帖」、アートアジェンダほか						
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
	204件	3.5%	32%	58.8%	企画の内容	展示作品	展示の仕方等
					99%	96.4%	87.6%
主なご意見	別紙のとおり。						

工夫と反省点、改善方法	予備調査・作品選定	2020年度に当館へ移管された市立博物館旧蔵品を中心に作品140点、資料12点が選定された(内、田河水泡コレクションが100点、その他博物館旧蔵品が49点、版画美術館収蔵品が3点)。歌川国芳らの戯画から、鯉絵、はしか絵、大津絵、あわて絵、戊辰戦争子ども遊び絵、そして小林清親の戯画まで、全7章で構成した(1章 戯画の流行、2章 大鯉暴れる(鯉絵)、3章 流行り病、4章 大津絵、5章 大津絵と江戸の戯画、6章 幕末動乱と戊辰戦争、7章 明治の戯画)。展示室の最後には田河水泡の『のらくろ』や『滑稽の構造』などの著作や写真を展示し、コレクションが収集された経緯も紹介した。また準備にあたっては、鯉絵を専門に研究する國學院大學大学院の石隈聡美氏に作品整理および解説執筆の協力を依頼した。
	リーフレット・ポストカードブック	各章の解説と図版、年表、文献案内を収録した、無料配布のリーフレットを作成した。過去の収蔵品展では、冊子(16頁、3000部)を作成することが多かったが、今回はより簡易なA3二つ折りのリーフレットとし、印刷部数を増やすことで(5500部)、会期末まで希望者全員に配ることができた。また、図録の代わりとしてポストカードブックを作成し、ショップで販売した。
	広報	26日間という短い会期に集客するため、ポスター、チラシはインパクトの強さを重視し、国芳の戯画を全面に出したカラフルなデザインを採用した。広報手段としては、広報物の配布・掲示のほか、プレスリリースの発送、広報まちだへの掲載、当館Twitter、Instagramへの投稿等を行った。また、展示作品は全点撮影可能(ただし田河水泡の著作類を除く)とした。SNSへの投稿数も多く、紹介ツイートのなかにはいいね数が600以上ついたものもあった。作品自体のイメージの強さや、没後160年を迎えた国芳への人気の高さが功を奏し、人々への周知へ結びついたと考えられる。
	ディスプレイ	広報印刷物に合わせ、ディスプレイもポップで親しみやすいデザインを採用した。一方で作品内容には難解なものも多く、全点に100~150字程度の解説をつけ、キャプションは文字サイズを大きくするなど読みやすさに配慮した。館長を中心に執筆した解説は大変わかりやすいと好評で、図録を希望する意見もあった。また、試みとして大階段横の壁面を大きく使い、展覧会タイトルとメインビジュアルを大きく引き伸ばしたカットティングシートを貼ったところ、撮影スポットとしてSNSへの投稿等に活用する方が多く見られた。階段で立ち止まるとの撮影となるため、安全性を考慮しつつ、今後も実施を検討したい。
	展示撤去	展示撤去ともに大きな問題なく実施された。大津絵の展示では企画展示室1の壁面ケースを使用した。当館のケースは奥行きが深いので、作品の細部が見づらいとの意見もあった。今後、掛軸を展示する際はケース内の展示方法を検討したい。
	イベント	「田河水泡と『滑稽』—講演と落語—」は、マンガ研究者である新美琢真氏による講演と三遊亭ぼん太氏による落語の2部構成であった。落語の上演にあたっては、著作権者の承諾のもと落語作家時代の創作落語(新美氏より資料提供)から演者が2席を選んで口演した。田河水泡の漫画家、収集家、落語作家といったさまざまな面を知ることができたとアンケートでも好評だった。館長によるスライドトークは当初ギャラリートークを予定していたが、コロナウイルスの感染状況を踏まえ、参加者間の距離が確保できるスライドトークへと変更した。また関連イベントとは別に、2月と3月に戯画と風刺画をテーマに館長講座を実施し、今後も講座の開催を希望する声が多く聞かれた。
その他特記事項	・各種の割引制度を導入した。割引内容と利用者数:リピーター割引(9人)、ウェブ割引(451人)、タクシー割引(6人)、パスポート割引(2人)、シェアサイクル割引(0人)	

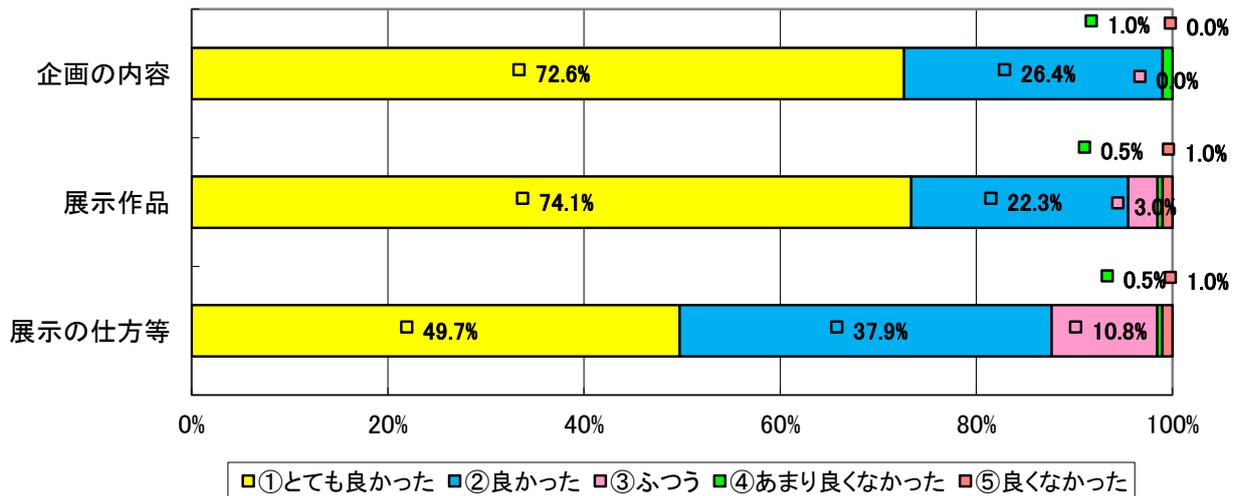
「江戸の滑稽—幕末風刺画と大津絵—」展  
アンケート集計結果

開催期間：2022年3月12日（土）～4月10日（日）

回答者数：204人（総入館者数：5,752人 アンケート回収率：3.5%）



## ⑥ 回答者の満足度



## ⑦ 主なご意見・感想

### ◆企画の内容

- ・初めて知ることが沢山あっておもしろかった。笑いに変えて表現する文化が良いと思った。
- ・ところどころ笑えるところがあり、浮世絵に対してのイメージが変わった。
- ・戦争など暗いニュースが多いなか、心が明るくなった。
- ・政治や社会に関心があり、人々が社会をどうとらえていたかが見られて良かった。
- ・市民から見た世情の浮世絵を見て、現在でも変わらないと思う作品があり、妙な親近感が湧いた。
- ・時代やテーマごとに分けられていて見やすかった。
- ・田河水泡先生がこんなに良いコレクションをしていたとは知らなかった。
- ・ちょうど「マー姉ちゃん」の再放送が終わったところで、田河水泡さんの人柄に触れることができて良かった。
- ・展示数が多く見ごたえがあった。階段の大きなシールなど映えスポットも良い。

### ◆展示作品

- ・国芳、芳年、大津絵がたくさんみられて眼福。
- ・展示品が多く、なかでも河鍋暁斎や月岡芳年が好きなので見に来て良かった。
- ・地震やコレラ、麻疹の作品など、タイムリーだと思って面白かった。
- ・見たことのない鯨絵が見られて良かった。

### ◆展示の仕方やキャプション

- ・あまり知識のない人にもわかりやすくかつ専門的なキャプションが大変良かった。キャプションを読む楽しさが堪能できた。
- ・キャプションに作品の意図やテーマがはっきりと書かれていることで理解が深まった。
- ・故事や歌舞伎、流行りの事柄などいろんな事を知って初めて風刺画を楽しめるのだと知ることができ、とても良かった。
- ・浮世絵を間近でみることでとても楽しかった。大津絵のパロディもパネルの説明で分かりやすかった。
- ・作品同士の間隔が丁度良く、隣の人を気にせず一つ一つゆっくり観ることができた。
- ・導線と床の矢印が分かりやすかった。
- ・やむなしかもしれないが照明が暗く細部が見えなかった。
- ・展示室にもう少し椅子が欲しい。

### ◆その他、感想・要望など

- ・のらくろの作者に興味があったので作品を見てみたい。
- ・シルバー無料が有難かった。
- ・図録が無いのがとても残念。
- ・スマホのシャッター音が気になった。美術館用シャッター音を開発してほしい。
- ・館長の浮世絵講座とても面白かったので今後も続けてほしい。
- ・これからも子どもと楽しめる企画を開催してほしい。
- ・駅から徒歩で少し分りにくかったが、「けやき」で食事ができて良かった。
- ・駅からの無料バスを運行してほしい。
- ・カードやWi-Fiが使えるようにしてほしい。

## 2022年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

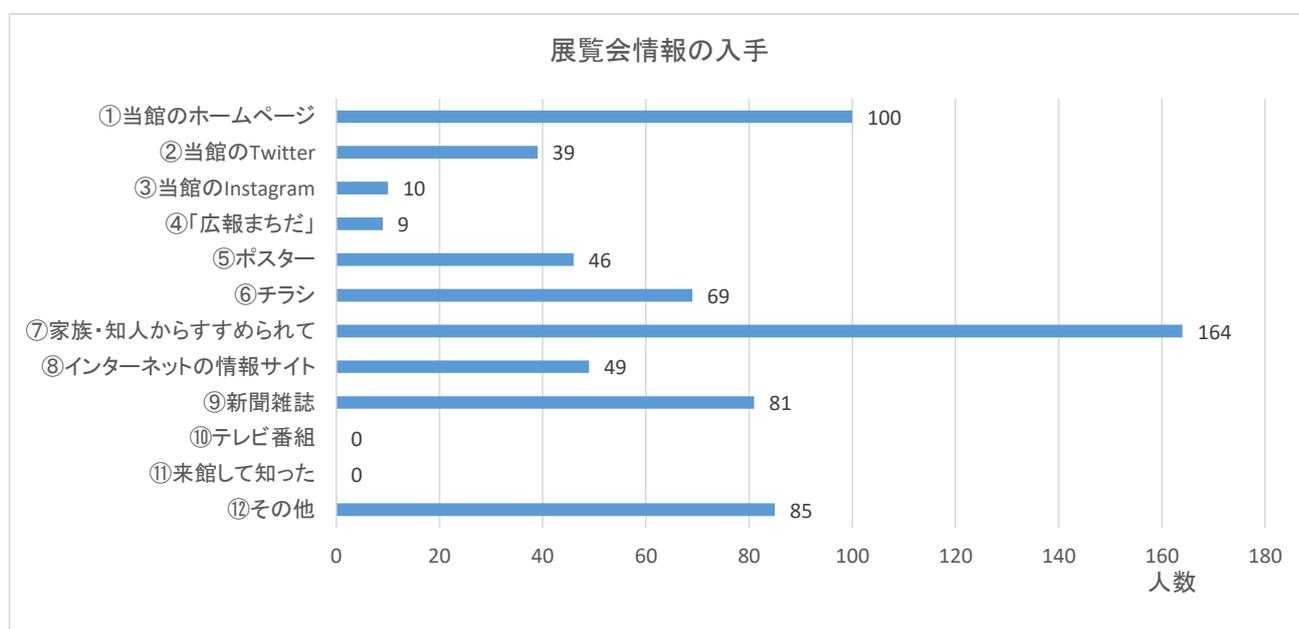
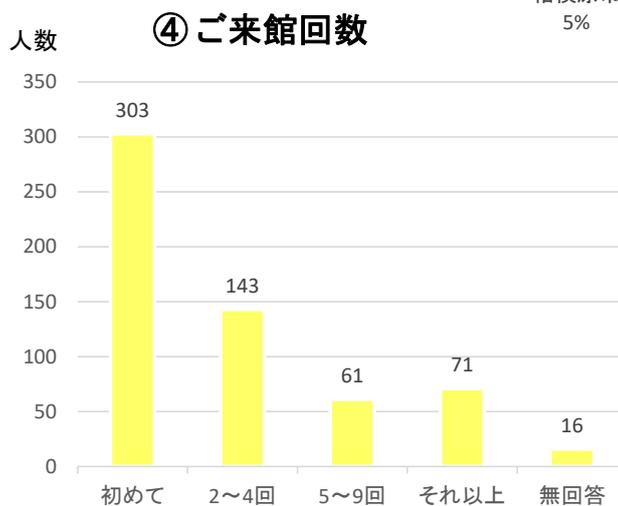
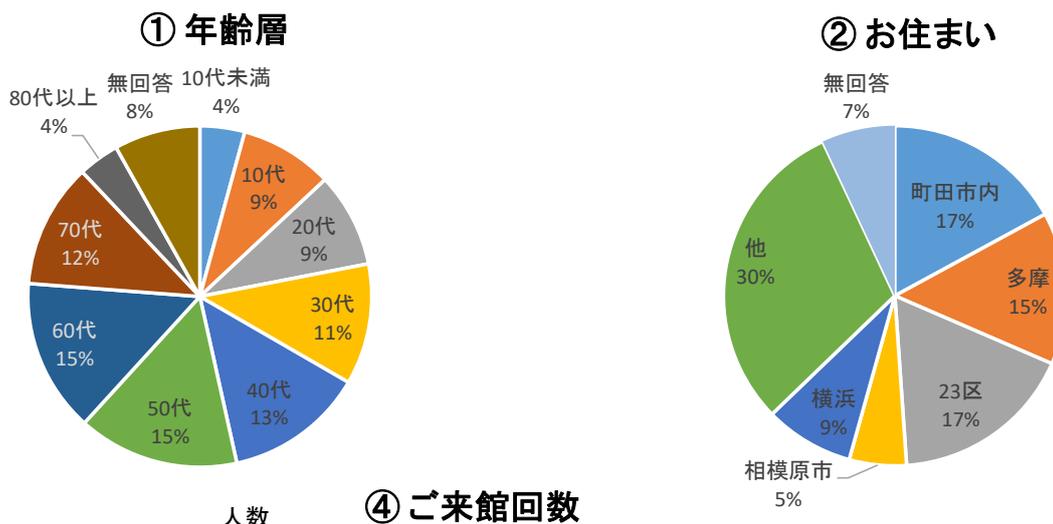
展覧会名	彫刻刀が刻む戦後日本—2つの民衆版画運動			担当者名	町村悠香、川添愛奈		
会期	2022年4月23日(土)～7月3日(日)			開催日数	62日		
協賛・後援・協力	助成：芸術文化振興基金						
巡回館	なし						
展覧会概要	本展では戦後日本で展開した2つの民衆版画運動を紹介した。1つは中国の木刻(木版画)運動の影響で版画による社会運動と版画の普及を目指した戦後版画運動。もう1つは、戦後版画運動から派生し、全国の小中学校教員たちが学校教育のなかで版画教育を広めた教育版画運動である。約400点の豊富な作品と資料を通して、あまり知られることのない版画史の一側面に光を当てる機会とした。						
ねらい・対象	2つの民衆版画運動を連続した事象として捉える初めての展覧会として開催した。ちらしやHPの紹介文冒頭では「子どもの頃に版画を作ったことはありますか？」と問いかけ、キャッチコピーは「工場で、田んぼで、教室で みんな、かつては版画家だった」とした。これにより多くの人が学校で経験した版画制作の記憶を呼び起こし、自分が行った活動に実は歴史的な背景があったことを知ってもらい興味を喚起することをねらった。また戦後の様々な社会問題、平和運動を扱った作品を展示したため、ニュースなどに関心を持つ層にもアプローチした。						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	版画作品募集	会期中全日程	「私も版画家だった」		19人		
	トークイベント	5月21日(土)	「アーティストがみる教育版画」	湯浅克俊 聞き手：担当学芸員	41人		
	子ども講座	5月7日(土)	「昭和にタイムトラベル！ガリ版にチャレンジ」 みてみてつくろう	杉浦幸子 制作指導：普及係学芸員 上村牧子	16人		
	絵本・紙芝居読み聞かせ	会期中の 毎週木曜日(10回)	おはなしのじかん	せりがや冒険遊び場ブ レーリーダー	189人		
	絵本・紙芝居読み聞かせ	5月14日(土)	みんなのステージ	せりがや冒険遊び場ブ レーリーダー、担当学芸 員	60人		
	上映会	6月4日(土)	教育映画『たのしいはんが』解説付き上映会	担当学芸員	52人		
	スライドトーク	5月8日(日)、 6月18日(土)	担当学芸員によるスライドトーク	担当学芸員	79人		
	プロムナード・コンサート	6月19日(日)	「うたごえ喫茶で甦る青春」	奥村浩樹(テノール)、 籾戸西到(ピアノ)	130人		
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日			
	900円	450円	無料	・初日：4/23 ・シルバーデー(65歳以上無料)：4/27,5/25,6/22			
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	5,986人	2,853人	8,839人	7,349人	511人	500人	—人
	目標値						9,576人
主な収入	観覧料収入		図録販売収入	受託販売収入		その他の特定財源	
	4,638千円		2,012千円	469千円		3,000千円	
事業経費	講師謝礼		128千円		10,671千円		
	原稿執筆謝礼		198千円				
	展覧会出陳謝礼		116千円				
	通信運搬費		3,995千円				
	作品額装委託料		602千円				
	広告宣伝委託料		1,070千円				
	ポスター等作成委託料		3,517千円				
	ディスプレイ作成委託料		1,045千円				
主な広報・取材等の講評	【新聞(文化面)】読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、東京新聞、しんぶん赤旗、共同通信配信記事【雑誌】芸術新潮、月刊アートコレクターズ、週刊文春【ウェブ】ARTNewsJapan、Tokyo Art Beat、朝日新聞Globe+、美術手帖webほか(新聞、雑誌、ウェブはいずれも展覧会レビュー)						

アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)			
	594 件	6.7 %	17 %	48 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等	
	主なご意見	別紙のとおり。						
工夫と反省点、改善方法	予備調査	2018年夏から外部の研究者らとともに戦後版画運動の機関紙を読む研究会を開始した。2019年春にミニ企画展「彫刻が刻む社会と暮らし」展を開催し、関連する収蔵品を展示。この展示に関係者が来館したことで、更なる作品・資料調査、インタビュー調査につながった。2020年秋ごろに本展が開催することが決まり、本格的に準備を始めた。新型コロナウイルスの影響による行動制限で地方調査で予定変更になることが多かった。						
	作品選択	作品・資料400点を選定し、約6章構成とした。展示スペース、借用期間に制限がある約10点を前期・後期で展示替えした。1～3章まではほぼ時系列で「1章 中国木刻のインパクト 1947-」は中国木刻の全国巡回展を紹介、「2章 戦後版画運動 時代に即応する美術 1949-」では労働運動、農民運動、平和運動に関連する作例を展示、「3章 教育版画運動と「生活版画」 1951-」では教育版画運動の興りを提示した。「4章 ローカルへ グローバルへ 版画がつなぐネットワーク」では草の根の活動として全国の労働者らのサークル誌、国際的な広がりとして中国・アメリカ・ソ連での展覧会を紹介した。「5章 ライフワークと表現の追求」では主題・造形性の追求に着目し各作家の個性が伝わるよう作品を選定した。「6章 教育版画運動の開花 1950年代-90年代」では教育版画運動の展開と全国的広がりが体感できるよう、各地の共同制作大型作品と版画文集・版画集を展覧した。						
	図録作成	原稿の執筆は研究会に参加した3名(池上善彦、鳥羽耕士、白凜)と担当学芸員の4名で分担し、研究会に参加した黒川典是が編集に加わった。テキスト1本、コラム4本、作品解説、フローチャート、雑誌再録、主要事項年表、主要参考文献を収録。売れ行きは大変好調で、会期末の10日前に840部が完売したため、増刷の問合せが多数あった。						
	広報	従来のプレスリリース発送、広報まちだへの掲載、当館Twitter、Instagramでの告知に加え、オンラインプレスリリースを導入した。また本展では試行的にプレス向け内覧会を行った。メディア関係者に初期からアプローチできたことで展覧会の意義が伝わり、多くのレビュー執筆につながったと考えられる。会期の後半からは公式SNSで作品解説の発信も行い好評だった。						
	宣伝	駅貼り広告は実施せず、SNS広告(Twitter、Facebook)に絞った。SNS広告では「展覧会・美術関心層」、「国際問題、政治関心層」に向けて配信し、うまくターゲティングが当たった。上記の通りオンラインプレスリリースの導入効果で、従来は掲載されなかった媒体で紹介された。さらに新聞、雑誌、ウェブなどで多くの展覧会レビューを寄せてもらうことができ、展覧会後半に向けて来館者数が大きく伸びた。アンケートでは展覧会情報の入手先が「⑦家族・知人からすすめて」が最多で、多くの来館者が個人のSNSに感想を書いて宣伝してくれた効果が反映されたと考えられる。						
	ディスプレイ	1～4章ではサイズが小さい作品や資料類が多いので、展示にメリハリをつけるため5章以降ではサイズの大きい作品を出品した。また映像も出品し、関連写真のパナーを作成することで、当時の臨場感が出るよう工夫した。6章の教育版画運動の展示では、部屋の中央に全国の版画文集・版画集を並べることで、教育版画運動が全国的に広がったことを体感できる空間づくりを目指した。						
	輸送・展示撤去	借用先が多かったため、11月から順次借用作業をはじめていった。大雪で延期になる借用先もあったが、概ね問題なく借用することができた。展示作業は4日間かけて行った。出品点数が多かったため、他の学芸員の手も借りて作業を行ったが、展示日程・作業人員にもう少し余裕を持たせる必要があった。						
	イベント	来館者が子ども時代につくった版画を募集する「私も版画家だった」というイベントを会期を通して開催し、ロビーに希望者の作品を展示した。聴講系では湯浅克俊氏(版画家)を招いたトークイベント、教育映画の解説付き上映会、担当者によるスライドトーク、プロムナードコンサートを開催した。制作系では、ガリ版づくりと鑑賞を結びつけた子ども講座を開催。また館外ではせりがや冒険遊び場にて、乳幼児向けに教育版画の絵本・紙芝居の読み聞かせを行った。						
その他特記事項	非常に多くの展覧会レビューが寄せられ、以下に関してはクロスレビューに発展するなど波及効果が大きかった。 ・横山由季子 「「私たち」の美術史に会える展覧会。町田市立国際版画美術館「彫刻刀が刻む戦後日本」展レビュー」WEB『Tokyo Art Beat』2022年6月17日 ・小田原のどか 「版画に宿る抵抗の精神(ぐるぐるキョロキョロ展覧会<25>)」 『芸術新潮』2022年7月号 ・菅原伸也 「戦後日本美術史のブラインド・スポット「彫刻刀が刻む戦後日本」展をめぐる」WEB『ARTnews JAPAN』2022年6月29日 ・山本浩貴 「ブラインド・スポットのその先へ ——再び「彫刻刀が刻む戦後日本」展をめぐる」WEB『ARTnews JAPAN』2022年7月14日							

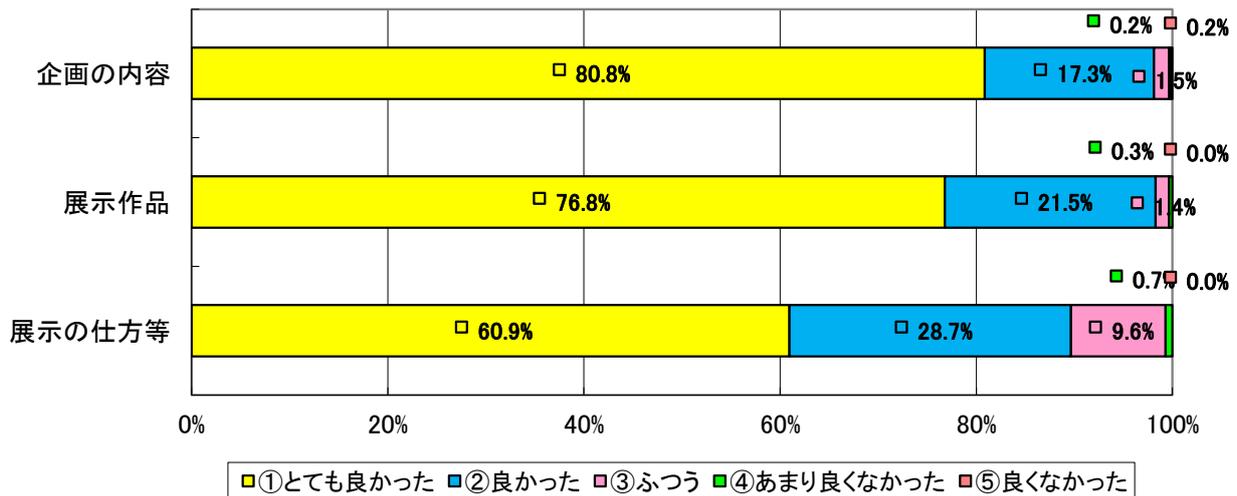
## 「彫刻刀が刻む戦後日本—2つの民衆版画運動」展 アンケート集計結果

開催期間：2022年4月23日（土）～7月3日（日）

回答者数：594人（総入館者数：8,839人 アンケート回収率：6.7%）



## ⑥ 回答者の満足度



## ⑦ 主なご意見・感想

### ◆企画の内容

- ・子どものころ図工でやった版画が戦前戦後からの美術の流れの先にあったとはとても驚きだった。
- ・戦後の図工・美術教育を顧みる珍しい展覧会で意義が深い。
- ・丁寧なりサーチの成果がキュレーションに発揮されていた。
- ・知らなかった版画の歴史を知ることができ、版画の専門館らしい企画でよかった。
- ・平和の大切さを改めて感じた。

### ◆展示作品

- ・子どもたちの作品のエネルギーに圧倒され、感動した。特に共同制作大型作品が素晴らしかった。
- ・「魔女の宅急便」の劇中画のもとになった作品を見られて嬉しかった。目当ての作品以外にも素晴らしく、歴史的背景も知ることができた。
- ・版画と漫画の関連性を知ることができて興味深かった。
- ・テレビが娯楽として現れる前、サークルを作っている人々がアマチュアとして版画やその他の芸術を楽しみ制作していたことが知れて面白かった。
- ・中国木刻の表現に触れることができてよかった
- ・版画とはこんなにも迫力があり、心に訴えるメッセージ性があるのだと初めて知った。

### ◆展示の仕方やキャプション

- ・十分な説明と補足があつて分かりやすかった。
- ・撮影できる作品があるのはよいが、可能箇所をもう少し増やしてほしい。
- ・作品によっては照明がアクリル面に反射していて見えにくかった。

### ◆その他、感想・要望など

- ・自分も子ども時代に共同制作で大型作品を作ったことを思い出した。自分の経験もこうした歴史の流れのなかにあったのだと理解できた。
- ・自分の母校で担任の先生が指導した作品があり、とても懐かしく嬉しかった。
- ・生活綴り方と版画、うたごえ運動、労働運動や中国文化とのつながりなど、自分の中でじっくりこなかったことが一つにまとまりました。
- ・今では図工・美術の時間が減って版画をあまり作らなくなっているのが残念。
- ・ケーテ・コルヴィッツの展覧会が見たい。
- ・教育版画の作品をもっと見たい。
- ・自分も版画を作りたいくなった。

アンケート回収率が6.7%と高く(通常3~4%台が多い)来館者の反響が大きかった。

集計結果では50代、60代が最も多いが、30代~70代が各年代10%を超えており、幅広い年齢層にアプローチできた。

地域をみると「その他」が最も多く、遠方から本展のために来館した人が多かった。このことは初めて来館した人の割合が高かったこととも連動していると考えられる。

情報源は「⑦家族・知人からすすめられて」が最も多く、来館者個人のSNSを介した口コミ効果が大きかった。

## 2022年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	文明開化の子どもたち Les enfants de l'ère Meiji – A l'école de la modernité (1868-1912)		担当者名	村瀬可奈	
会期	2022年3月30日(水)～5月21日(土)		開催日数	40日	
会場	独立行政法人国際交流基金パリ日本文化会館				
主催	町田市立国際版画美術館、独立行政法人国際交流基金パリ日本文化会館				
企画構成	町田市立国際版画美術館				
協賛・後援・協力	特別協力: 公文教育研究会 協賛: 日本航空株式会社				
巡回館	なし				
展覧会概要	19世紀後半の明治時代は、西洋の文化・風俗との出会いにより日本の社会が大きく変わった時期にあたる。街には洋風建築や洋装が普及し、徐々に近代化が進められた。子どもの生活も例外ではなく、西洋式の学校教育が導入されるなど、今日へと繋がる新たな「学び」のかたちが模索される。一方でまだ裏通りには江戸の香りが残っていた時代。昔ながらの「遊び」の世界も、彼らの生活を鮮やかに彩り続けた。本展では、新旧の共存する19世紀後半の子どもの「学び」と「遊び」を、色彩豊かな浮世絵を通して紹介した。				
ねらい・対象	浮世絵には風景画や美人画といった鑑賞性の高い作品のほか、本展で紹介するような「教材」や「おもちゃ」など実用性に富んだ作品も多数制作された。今日紹介される機会の少ない分野ではあるが、当時の子どもの日常やその成長を見守る大人たちのまなざしを今に生き生きと伝える貴重な資料である。本展は、2017-18年に当館と足利市立美術館で開催された「浮世絵にみる子どもたちの文明開化」展の内容を、フランスの鑑賞者に向け再構成したものである。未来への希望をのせた教育錦絵や、夢を育むおもちゃ絵や物語絵など、144点を展覧し、明治期の好奇心を感じていただく展示を目指した。				
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数
	講演会	3月29日(火)	オープニング記念講演会 「文明開化の子どもたち」	村瀬可奈(当館学芸員)、マヌエラ・モスカティエツロ(チェルヌスキ美術館学芸員)	108人
観覧料	一般	割引	無料日		
	5 €	3 €	5月14日(土) 欧州美術館の夜(Nuit européenne des musées)		
観覧者数	6,784	人			
主な収入	観覧料収入		図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源
	- 千円		- 千円	- 千円	- 千円
事業経費(当館負担分)	・旅費(国内移動費)			7千円	7 千円
主な広報・取材等の講評	◆フランス【テレビ】Aligre fm (2022/05/04)、TV5 MONDE (2022/05/13)【新聞】Le Monde (2022/4/19)、La Croix (2022/5/4)【雑誌】Le Figaro Magazine (2022/5/6号)、Beaux Arts Magazine (2022年5月号)、L'objet d'Art (2022/5号)【ウェブ】Histoire.fr (2022/3/30)、Tererama.fr (2022/4/22)、Lejournaldesarts.fr (2022/11/5)ほか ◆日本【新聞】町田ジャーナル【雑誌】月刊コロムブス(2022/5号)【ウェブ】スファート(2022/4/2)ほか				
アンケート結果	回収数	回収率	満足度 (とても満足と満足の率)		
	371 件	5.5 %	98 %		
主なご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても興味深い展示で、今までパリで行われた展覧会とは異なるテーマだった。</li> <li>・各作品の下にある沢山の解説がとても良かった。</li> <li>・浮世絵の繊細さと、浮世絵が放つ生き生きとした印象に魅了されました。明治時代とそれぞれの文化の混合が、展示作品によって見事に紹介されていました。</li> <li>・とてもよかったが、作品の中で紹介されている楽器やオブジェもみられたらもっとよかった。</li> </ul>				

工夫と反省点、改善方法	企画立案	2021年2月にパリ日本文化会館より展覧会開催の依頼があり、庁内での検討の結果、3月に共催にて開催することが正式に決定した。4月に企画内容の第一稿をパリへ送付し、相談の末5月中旬に枠組みが確定した。8月に開催についての合意書を取り交わした。
	展示構成・作品選定	当館と足利市立美術館で2017-18年に開催された「浮世絵にみる子どもたちの文明開化」展をベースにしなが、パリの鑑賞者へ向けて構成と作品を大幅に入れ替えた。冒頭には横浜絵や開化絵を通して明治初期の風景・風俗を紹介するプロローグを設け、終盤にフランス人画家ビゴの描いた日本を展示するエピローグを加えた。パリ日本文化会館の助言を得ながら、全144点を選定した(48点は新規出品)。当館収蔵品88点のほか、56点を公文教育研究会より拝借した。章立ては、プロローグ 明治・日本へようこそ！／1. 浮世絵で“学ぶ”(学校のはじまり／英語ブーム／森羅万象を学ぶ)／2. 浮世絵で“遊ぶ”(おもちゃ絵で遊ぼう！／子どもたちの好きなもの 動物・おぼけ・物語)／3. 子どもたちへのまなざし(楊洲周延／尾形月耕／宮川春汀／山本昇雲)／エピローグ ビゴのみた日本。
	図録	パリ日本文化会館編集発行により展覧会図録が制作・販売された(22cm x 28cm、全192頁、28€)。論文2点、図版、作品解説、年表、作品リストを収録。テキストは中城正堯氏(日本展監修者)、福島直氏(足利市立美術館、現東京オペラシティアートギャラリー学芸員)、担当学芸員が日本展図録に執筆したものに、新規出品作の解説を書き加えて2021年9月頃に提出。フランス語に翻訳されたのち、12月頃からレイアウト確認、校正を行った。2月に色校正を行ったが、ロシア・ウクライナ情勢の影響により校正紙の返送が叶わず、PDFでのやり取りとなった。
	空間構成	2021年9月頃にデザイナーによる初案が提示された。空間のコンセプトは、子ども時代のノスタルジーを想起させるもの、そして新たな時代(文明開化)を照らすものとして、「ランタン(灯籠)」をテーマとしたもの。各空間の天井からは回り灯籠を模した筒状のスクリーンを吊り下げて作品の画像が投影され、平面作品が多いことを感じさせない立体的な空間構成となっていた。会期直前まで展示ケースのサイズや版本の展示方法、壁面の色、解説パネルのデザインなど、細かい調整が行われた。ちなみに壁面や展示ケースは深い紺色や淡いグリーン、イエローなど、展示作品に使われている色彩が基調色に用いられ、現地を確認したところ全体的に作品がよく映えるデザイン性に富んだ空間となっていた。またキャプションについては、現地担当者からなるべく詳しい解説が好まれるとの助言があり、日本展とほぼ変わらぬ分量の解説が全点につけられ、アンケートでも好評だった。
	クーリエ・輸送	2022年2月初旬に公文教育研究会より作品を拝借し、当館の作品と合わせて額装、梱包など出発準備を行った。年明けからコロナウイルスの感染が拡大し、クーリエの渡航可否が懸念されたが、2月下旬にはピークアウトしたため随行が決まった。しかし渡航直前にロシア・ウクライナ情勢の影響によりパリ直行便がキャンセルとなった。関係各所との調整の末、3月16日の時点でロンドン経由での輸送ルートが確保でき、19日に作品が貨物便で渡航、20日にクーリエが渡航することとなった。現地ロンドンではパリ日本文化会館の担当者が作品を受け取り、21日にクーリエ同乗によりパリへ陸送した。会期終了後には、直行便の運行が再開されたため、当初予定されていた通りに作品が帰国した。作品は合計10箱のクレートにて輸送された。
	展示撤去	上記のとおり輸送スケジュールの変動に伴い、展示の計画も変更を余儀なくされた。当初は3月21日から作品設営が予定されていたが、同日が作品搬入日となり、22日にシーズニング、23日に展示が開始された。そのため、別日に予定されていたグラフィックおよび照明調整を限られた日程で進行することとなった。作業にあたってはパリ日本文化会館の職員の通訳を介して進められた。今後こうしたイレギュラーな対応が生じる可能性を考慮し、余裕のあるスケジュールリングや作業工程の事前確認をこころがけたい。
	広報	現地での広報は、プレスリリースやプレスキット(解説、図版をまとめた18頁におよぶ冊子)の作成、ポスター掲示、季刊プロシユアへの掲載、招待状、広報用ポストカードの作成など充実したものだ。広報文は当館より提出した展覧会概要や図録原稿をもとに、現地で翻訳のうえ編集された。会期前日(3月29日)には内覧会(プレス向け、一般招待向け)が開催された。一連の広報活動は広報会社へ委託されており、最終的なメディア露出は、新聞雑誌54件、テレビ・ラジオ4件、WEB69件にのぼった。またパリ日本文化会館の教育普及活動として、公式YouTubeの動画シリーズ「Le Studio」が製作され、インタビュー形式で担当学芸員が解説する動画が公開された。このほか、当館独自のプレスリリースを国内の美術メディアへ発送したほか、町田市のシティプロモーションとしてのプレスリリースも発信した。
	内覧会・イベント	3月29日に内覧会が実施され、170名が来館した。1980年代から2000年まで文化大臣・国民大臣を複数回務めたジャック・ラング氏が来場し、鑑賞。大変情熱的かつ新しいテーマを扱った展覧会で素晴らしいとのコメントがあった。同日に記念講演会が開催され、事前申込の時点で満席となった。1時間半のなかで、担当学芸員の講演、テルヌスキ美術館日本美術担当学芸員のマヌエラ・モスカティエツロ氏との対談、会場との質疑応答も実施された。また会期中は小学生の団体鑑賞が複数回実施され、日本とフランスの文化を比較しながら、浮世絵の鮮やかな色彩を楽しむ子どもたちの姿がみられた。
その他特記事項	事業経費の欄には、当館が負担した国内移動費のみを記載した。	

## 2022年度 前半期 ・ 普及事業 2022年4月～2022年9月

- 1 版画講座  
版画工房・アトリエにて開催される版画の講習会。様々な種類の版画を体験することができます。制作を通して版画の理解を深め、創作の楽しさを味わうことを目的としています。子どもを対象にした講座では、版画美術館ならではの楽しい制作体験ができるよう工夫を重ねています。

No	事業名	対象	概要	実施日程	実施状況 (感染症対応)	定員 (当初予定定員)	参加延人数 (実績値)	小中学生 (実績値)	参加費
1	銅版画一日教室①	一般 (高校生以上)	版画の基本的な制作を一日で体験する。初心者から参加可。12×16cmの銅板を用い、ドライポイント技法で作品を制作。下絵は各受講生が持参。様々な方法で描きこむことにより深みのある作品作りを目指す。講師：馬場知子氏	6/3(金)	定員減	10人(14人)	9人	—	3,000円
2	銅版画一日教室②			6/4(土)	定員減	10人(14人)	10人	—	3,000円
3	リトグラフ一日教室①	一般 (高校生以上)	各自用意した下絵をもとに、単色のリトグラフ作品を制作する。受講生は講師のアドバイスを受けてつ、様々な描画材を使ってアルミ版に描き込むことで、リトグラフならではの表現を体験する。初心者から参加可。感染症対策の為、講義・描画はアトリエで実施。講師：小森琢巳	9/2(金)	会場変更	8人	8人	—	3,000円
4	リトグラフ一日教室②			9/3(土)	会場変更	8人	8人	—	3,000円
5	創作講座 銅版画 版の痕跡を思考する	一般 (高校生以上)	エッチングとアクアテントを中心に、銅版画の基本的な制作プロセスから雁皮刷りなどの応用技法までを学ぶ。講師：濱田富貴	9/14～11/16 (水曜日 10回)	変更なし	14人	14人	—	30,000円
6	子ども講座① みてみてつくろう 昭和にタイムトラベル！ガリ版にチャレンジ	小学3～6年生	企画展「彫刻刀が刻む戦後日本—2つの民衆版画運動」展における作品鑑賞と、昭和に活躍した印刷技法・ガリ版(謄写版)の制作体験を行う。講師：杉浦幸子(武蔵野美術大学芸術文化学科学科教授)。子どもの大型版画作品および版画集を学芸係学芸員の解説で鑑賞したのち、「平和」というテーマで謄写版による作品を各自制作。最後に自作について一人ずつ発表。ボランティアのまちだサポーターズは鑑賞中の子どものみまもりや制作補助の他、展示作品やガリ版にまつわる昭和の思い出を語ってもらった。感染症対策のためスペースがとれる講堂で実施。	5/7(土)	会場変更	16人	16人	16人	1000円
7	夏期子ども講座 宇宙人のウキウキ夏休み ～いろいろな材料で版画を作ってみよう！～①	小学4～6年生	東京学芸大学の学生ボランティア16人と指導教官が企画・指導をおこなう。作品の制作や鑑賞を通じて創作する喜びを体得させ豊かな創造力を養う。講座はアトリエで行い、「宇宙人は夏休みに何をしているの？」というテーマで想像の世界を板紙を使用したコラグラフで表現した。受講生それぞれが事前に「どんな宇宙人が、どんな夏休みを楽しんでいるか」をワークシートに記載し、下絵を作成して持参。当日はそれをもとに宇宙人の版と背景の版を制作し、ローラーで自由に色彩をつけ、背景の版に宇宙人の版を重ねた上に紙を置き、パレンで摺った。講座終了後、子どもたちの作品と指導にあたった学生の版画作品を市民展示室で展示した。講師：清野泰之(東京学芸大学芸術・スポーツ科学系教授)	7/30(土)	時間短縮	16人	12人	12人	1000円
8	夏期子ども講座 宇宙人のウキウキ夏休み ～いろいろな材料で版画を作ってみよう！～②			7/31(日)	時間短縮	16人	13人	13人	1000円

- 2 学校教育への協力  
町田市内の学校を中心に、美術部の体験学習や学校単位での団体鑑賞、出張授業などをおこなっています。版画技法について教員からの問い合わせに答えたり、教員研修会への講師紹介・道具の貸出しなどもおこなっています。

No	事業名	対象	概要	実施日程	実施状況 (感染症対応)	参加延人数 (当初予定)	参加延人数 (実績値)	小中学生 (実績値)	参加費
1	版画講座	中学、高校の 美術部など	東京都立小川高等学校美術部9名(1年生)が参加。学芸員の指導により銅版画(メゾチント)の作品を制作。開催中の長谷川潔展においても鑑賞を行い、メゾチントの表現の特徴などを学ぶ。	8/19(金)	変更なし	—	9人	—	1000円
2	教員研修会等への協力	町田市内の 小中学校など	町田市小学校教育研究会図工部夏季研修会開催にあたり、講師の紹介、内容・進行に対する助言、会場利用に関する調整等を実施。	8/26(金)	変更なし	—	21人	—	無料

- 3 作品展  
講座で制作した作品による作品展を、館内の市民展示室等で開催します。作品を展示する機会を受講生に提供し、「発表する楽しさ」を経験してもらうことを目的としています。

No	事業名	対象	概要	会期	実施状況 (感染症対応)	出品状況	来場者数 (実績値)	小中学生 (実績値)	観覧料
1	講座受講生作品展 「私たちのステップ・ワン 版画講座受講生と講師による展覧会」	どなたでも	2021年度創作講座(長期講座)スクリーンプリントの受講生と講師による作品展。講座中および講座終了後に制作した作品14点のほか、スクリーンプリントの制作工程の解説や道具類を展示した。会場：市民展示室	5/25(水)～5/29(日)	変更なし	受講生6人(12点) 講師1人(2点)	217人	11人 (推定5%)	無料
2	夏期子ども講座作品展 宇宙人のウキウキ夏休み展	どなたでも	夏期子ども講座(内容上記参照)の受講生と指導をおこなった東京学芸大学の学生による作品展。講座で制作した版画のほか、各自がアイデアを記したワークシート、制作についての感想文も展示した。会場中央には刷り終えた紙版を利用した「巨大モビール」を設置。展示会場：市民展示室	8/11(水)～14(土)	変更なし	受講生25人(25点)、 大学生11人(12点)	259人	44人	無料

- 4 イベント、コンサート  
気軽に参加できるさまざまなイベントを実施することで、より身近な美術館となるよう努めます。

No	事業名	対象	概要	実施日程	実施状況	定員	参加人数 (実績値)	小中学生 (実績値)	参加費
1	版画体験イベント レース×プレス機でつくる版画①	どなたでも	「長谷川潔1891-1980展 日常にひそむ神秘」関連催事 レースを使った作品を多く遺した長谷川にちなみ、レースのパーツを花のモチーフとしてレイアウトした版画(コラグラフ)を制作。レースを並べた紙版を載せて一度プレス機を通したベタの木版を版にすることで、レースが長谷川の作品のように白く表現される。講師：常田泰由(版画家)。制作時間：約20分。会場：アトリエ。	8/6(土)	変更なし	48人	46人	24人(未就学児含む)	500円
2	版画体験イベント レース×プレス機でつくる版画②			8/7(日)	変更なし	48人	49人	27人(未就学児含む)	500円
3	プロムナード・コンサートⅠ 「うたごえ喫茶で甦る青春」	どなたでも	「彫刻刀が刻む戦後日本—2つの民衆版画運動」展関連催事 奥村浩樹(テノール)、鶴戸西到(ピアノ) イタリア歌曲、オペラアリアのほか、「上を向いて歩こう」「見上げてごらん夜の星を」など	6/19(日) ①13:00 ②15:00 各回30分	定員設定	①70人 ②70人	①60人 ②70人	5人	無料
4	プロムナード・コンサートⅡ 「版画の神秘・音の神秘」	どなたでも	「長谷川潔1891-1980展 日常にひそむ神秘」関連催事 ①桜美林大学芸術文化学群音楽専修 ②玉川大学芸術学部 町田市内の大学で音楽を学ぶ学生による声楽、器楽。	9/10(土) ①13:00 ②15:00 各回30分	定員設定	①70人 ②70人	①69人 ②69人	5人	無料

- 5 版画工房・アトリエの一般開放

No	事業名	対象	概要	実施日数	実施状況	定員 カッコ内は70%時の定員	参加人数 (実績値)	小中学生 (実績値)	使用料
1	版画工房・アトリエの一般開放	版画制作経験者	版画工房とアトリエを開放し、創作の場を市民に広く提供しています。各種プレス機、腐蝕施設、ローラー等の備品のほかインクなどが使用できます。	62回実施 4/1～5/31(21回) 通常定員の70%で実施 6/1～9/30(41回) 通常定員で実施	定員減 (4.5月)	銅版画10(7)人 リトグラフ6(5)人 スクリーンプリント8(5)人 木版画2(2)人	4/1～9/11 (57回) 1854人	—	半日：1,250円 一日：2,500円

## 国際版画美術館 2023(令和5)年度 展示計画

	2023 3月		4月		5月			
企画展示室 1	市美展 5(日)	18(土)	自然という書物 15～19世紀のナチュラルヒストリー&アート展		21(日)			
企画展示室 2								
常設展示室	12(日)	15(水)	I 期 日本の自然					
	6月		7月		8月			
企画展示室 1	3(土) 描かれた戦争・報道展(仮称)		17(月・祝)		22(土) #映える風景を探して 2 (仮称)			
企画展示室 2								
常設展示室	11(日)	13(水)	II 期 大正・昭和初期の東京風景 織田一磨と川瀬巴水を中心に					
	9月		10月		11月			
企画展示室 1	24(日)		7(土)		楊洲周延展			
企画展示室 2								
常設展示室	24(日)		9/27(水)		III 期 エッチングの世界(仮)			
	12月		2024 1月		2月			
企画展示室 1	10(日)	21(木)		12(金) 小中学校作品展		18(日)	24(土)	
企画展示室 2				新収蔵作品展		18(日)		
常設展示室				17(日)		21(木)		IV 期 黒崎彰
	3月		4月		5月			
企画展示室 1	3(日)	16(土)		版画の青春 小野忠重と版画運動 展(仮称)		19(日)		6/1土
企画展示室 2								
常設展示室	10(日)	13(水)	I 期		19(日)		22(水)	

※市美展(2024. 2/24[土]～3/3[日]予定)

## 2023 年度 町田市立国際版画美術館 普及係 事業予定

	定員	参加費
◆版画講座 創作講座 リトグラフ (10 日間)	10 人	30000 円
銅版画一日教室 ①	10 人	3000 円
銅版画一日教室 ②	10 人	3000 円
リトグラフ一日教室 ①	8 人	3000 円
リトグラフ一日教室 ②	8 人	3000 円
木版画一日教室 <年賀状> ①	16 人	3000 円
木版画一日教室 <年賀状> ②	16 人	3000 円
	定員	
◆子供講座 子ども講座 ① (1 日間)	16 人	1000 円
子ども講座 ② (1 日間)	16 人	1000 円
夏期子ども講座 ① (講座1 日間 + 作品展示)	16 人	1000 円
夏期子ども講座 ② (講座1 日間 + 作品展示)	16 人	1000 円
	参加見込数	
◆学校対象 版画講座 年 5 校程度	50 人	500 円
出張授業 年 2 日程度	150 人	無料
	来場見込数	
◆展 示 夏期子ども講座作品展	300 人	無料
町田市公立小中学校作品展	15000 人	無料
	来場見込数	
◆イベント プロムナードコンサート 年 4 回	各回 140 人程度	無料
ゆうゆう版画美術館まつり (友の会と共催) 2 日間	6000 人程度	無料
	利用見込数	
◆一般開放 版画工房・アトリエの一般開放 125 日	4500 人	半日 1250 円

芹ヶ谷公園 "芸術の杜" パークミュージアム  
「(仮称) 公園案内棟 / 喫茶 / 版画工房 / アート体験棟」基本計画

# 目次

## § 1：基本計画策定の背景と目的

- 1－1：基本計画策定の背景
- 1－2：基本計画の位置づけ
- 1－3：基本計画策定の目的

## § 2：施設整備の基本的な考え方

- 2－1：施設のコセプト
- 2－2：計画の条件
  - (1) 計画敷地及び施設建設の条件
  - (2) 関係する法規制等

## § 3：施設機能の考え方

- 3－1：各機能の目指す役割について
  - (1) 工房機能
  - (2) サービス機能
  - (3) マネジメント機能

## § 4：施設のあり方

- 4－1：基本的な考え方
- 4－2：全体のイメージ

## § 5：計画推進に向けて

- 5－1：事業のスケジュール

## § 付属資料（専門家や利用者の意見等）

- 1：基本計画の策定にあたって
- 2：意見交換やアンケート

## § 1 : 基本計画策定の背景と目的

### ▶（仮称）公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟の基本計画策定の背景

すべてにおいてオンライン化が進む今、人々の関心は、モノの消費からコトの消費へと変わってきています。体験や経験に価値を感じ、それをだれかと共有しともに楽しむこと。その体験が気軽に楽しめるものであったり、「ここでなきゃ」と思えるものであること、それが人々を惹きつけます。

公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟は、パークミュージアムへの玄関口であり、公園来園者、施設利用者、周辺地域の方々などを始め、パークミュージアムに興味を持つ全ての人々へ開かれた施設です。

豊かなみどりと二つの美術館を望むように建つ建物は、施設内の雰囲気外部からも感じられ、人の活動の様子や雰囲気を体感できます。「自分も工房を利用してみよう」「自分も芹ヶ谷公園に繰り出して何か新しいことをやってみよう」といった興味・関心・感動の“種”を育て、心を養うきっかけづくりができる空間となります。

そして、この建物から、人々が“種”をもって芹ヶ谷公園へ行くことで、自分だけのお気に入りの場所で寛ぐ、広場で遊ぶ、みどりを感じながら創作活動に打ち込む、芹ヶ谷公園ならではのアートを発見するなど、色とりどりのアートや活動が芽吹き、素敵な風景が公園全体に広がっていきます。

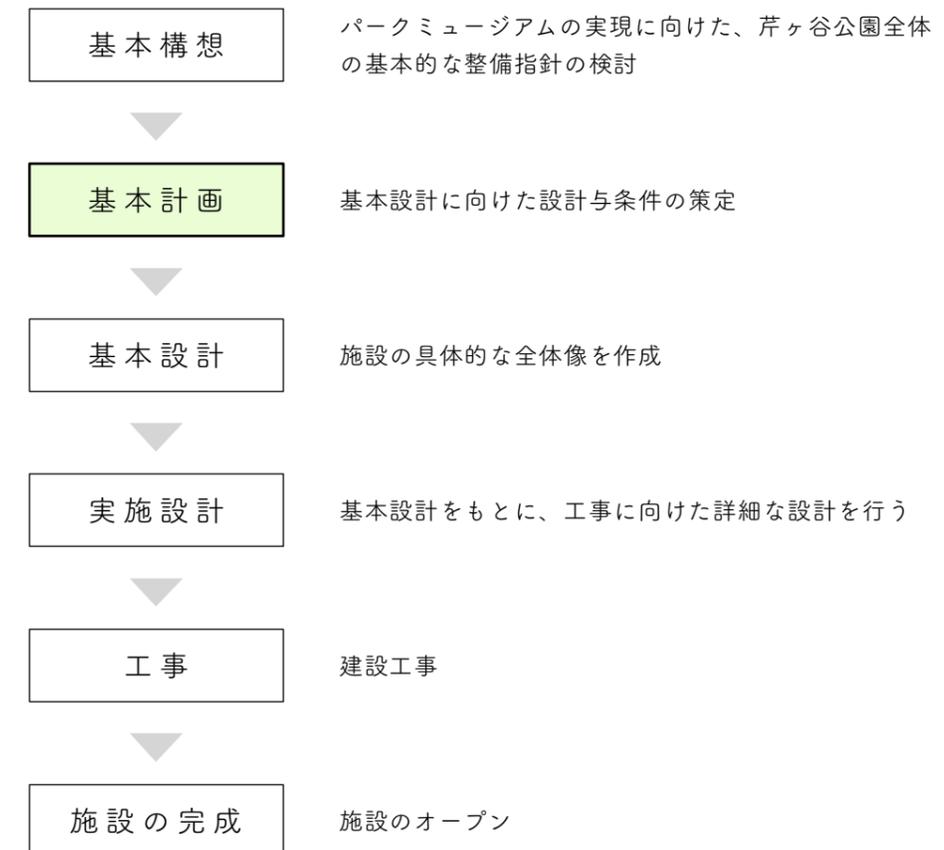
また、1987年の開館以来、国際版画美術館は「鑑賞」「創作」「発表」の機能を一体的に提供するという役割を担ってきました。版画に加えてガラスや陶磁器などの制作もできる新しい工房と二つの専門美術館とを密接に連携、一体化させることで、これまでの役割をより発展・継承させていきます。

「（仮称）公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟」は、この場所ならではの体験や過ごし方が出来る芹ヶ谷公園、みんなでつくる”パークミュージアム”の実現にふさわしい拠点となることを目指します。

### ▶基本計画の位置付け

「（仮称）公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟」の基本計画では、芹ヶ谷公園の一体的整備の基本構想でまとめたコンセプトをもとに、パークミュージアムへの玄関口として、人々へ開かれた施設となるように検討を行います。そのために、目指すべき施設の将来像や求められる機能をより具体化し、基本設計へと反映していく事項の整理を行います。

「（仮称）公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟」の設計～施設完成までの流れ



## 公園と連続し、パークミュージアムへと 美術活動を展開する拠点「美術エリア」

「パークミュージアム」は、通常の博物館や美術館のように展示されているものを鑑賞するだけでなく、町田の多様な文化芸術の活動や公園の豊かな自然を体験しながら学び楽しむことができる新しい体験型の公園を意味しています。特徴的な谷戸地形や緑、湧水など、芹ヶ谷公園の恵まれた自然を感じながら、誰もが多様なアート活動に五感を通じて触れられる“ここならではの”体験を提供します

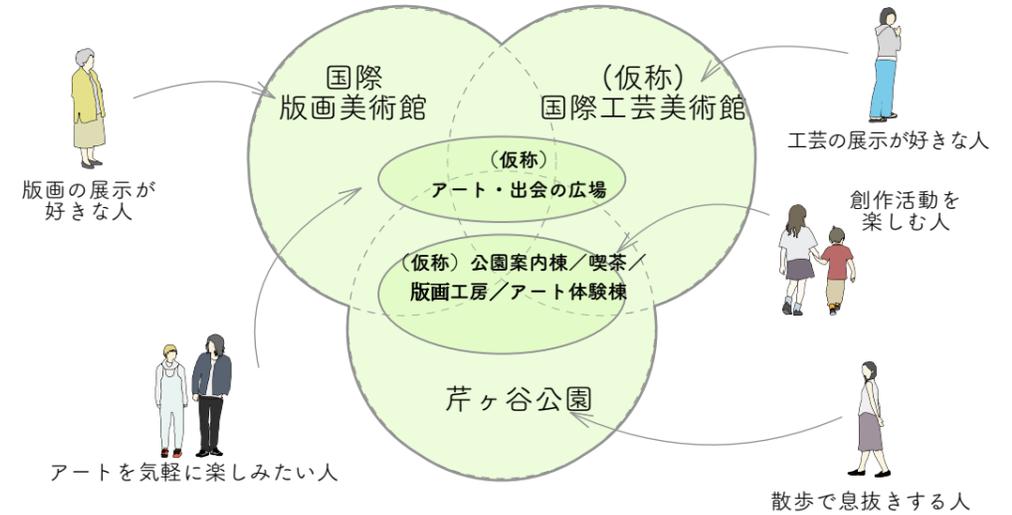
### ▶谷のロビーを中心とした美術エリアの形成

美術エリアには、パークミュージアムに美術活動が展開していく場として、(仮称)国際工芸美術館の整備とあわせて新たに「(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟」や「(仮称)アート・出会いの広場」など、美術活動をより身近に感じられる場や、多様な創作活動が行える場を整備します。



### ▶(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟がつなぐ文化・芸術活動

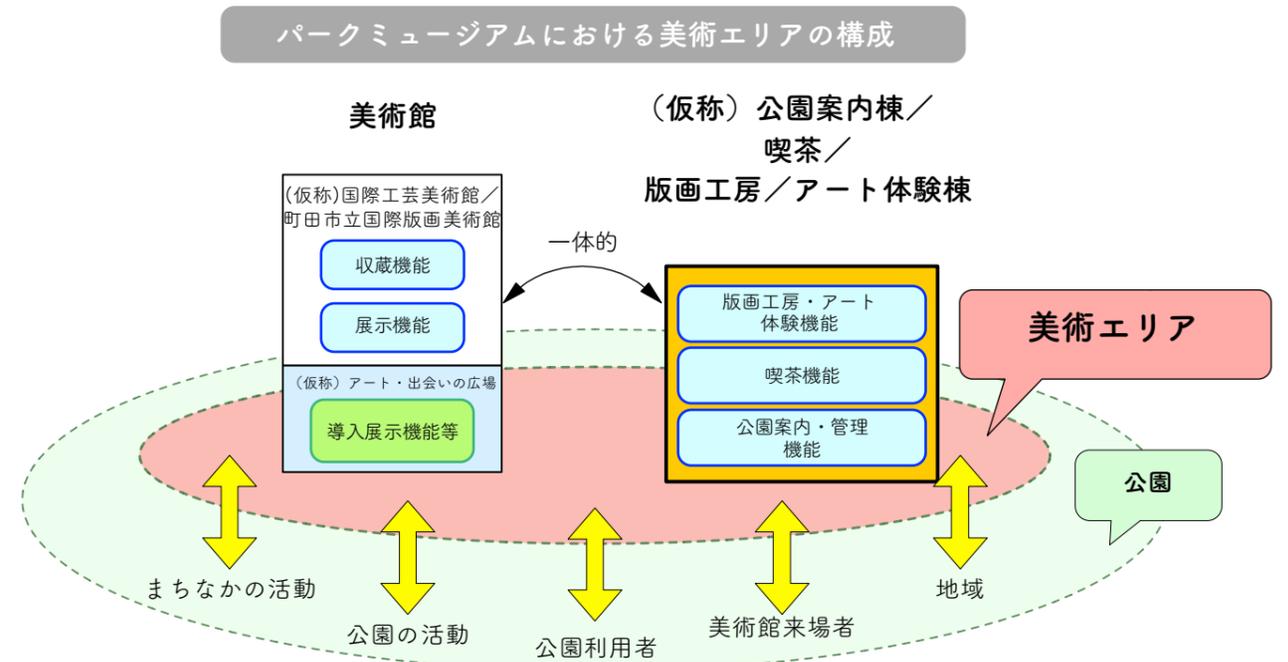
(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟」や「(仮称)アート・出会いの広場」は、2つの美術館と公園の活動や空間の繋がりを生み出し、より多くのひとが集い、多様な文化芸術に親しむ場と機会を提供します。



### ▶美術エリアに様々な機能を再配置します

美術館のコアとなる機能(展示・収蔵等)を中心としたコンパクトな(仮称)国際工芸美術館を整備する一方で各種のサービス機能や工房等の体験や教育普及機能については公園全体の施設や機能と一体的に捉え、効果的・効率的な機能の再配置を行います。

公園内に展開された機能はパークミュージアムの体験・活動ステージとなり、公園に求められる機能を充足するとともに、公園を訪れる多様な人々が気軽に文化芸術に触れられる場になります。

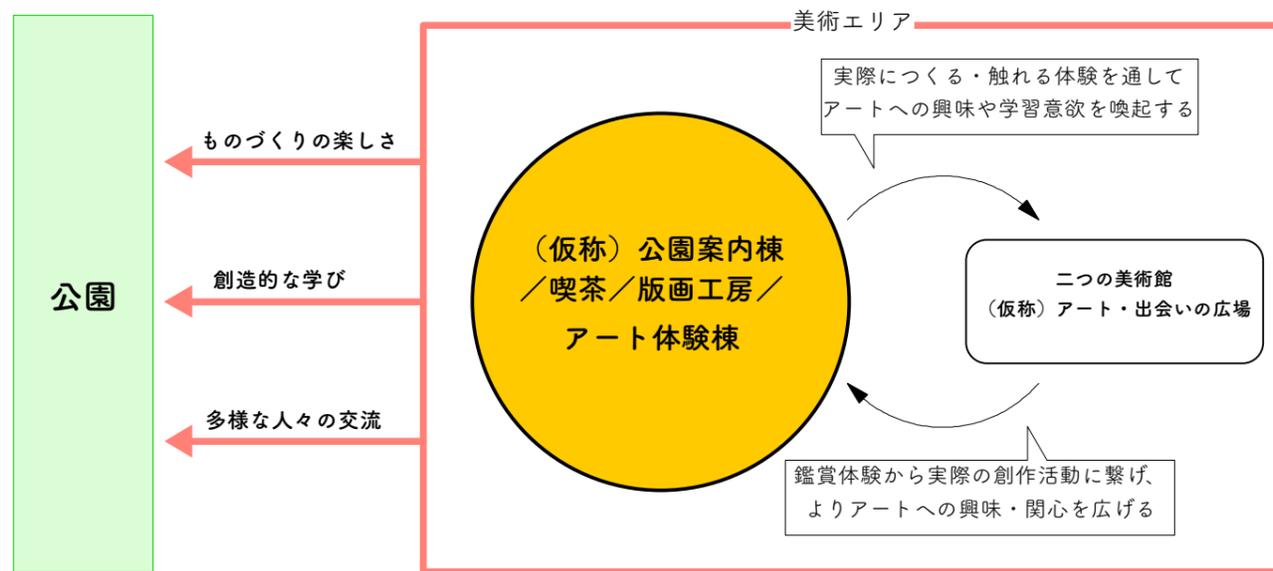


## § 2 : 施設整備の基本的な考え方

▶施設のコンセプト

子どもから大人まで、「アート」の楽しさ、「創造」の喜び、「滞在」の心地よさを体験できる、パークミュージアムの玄関口

パークミュージアムの美術エリアにおける創作や体験を担う拠点「（仮称）公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟」、工房機能を中心に、多様な世代の人々がアートに触れ合うことができる様々な機会を提供していきます。また、パークミュージアムの総合案内や美術エリアにおける創作・体験活動が集約した玄関口として、アートや芹ヶ谷公園の情報・魅力を提供していきます。



▶施設のミッション 施設の普遍的な目的について

子どもから大人まで、楽しみながら創作活動に取り組むことで、創造的な文化を育み、発展させていく。

パークミュージアムでは、町田ならではの魅力的な文化と出会える取り組みを展開していきます。そのなかでも、（仮称）公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟は、特に版画・ガラス・陶芸などの創作活動を通じて、創造的な営みとしての文化を育て、次代に繋いでいくことを目指します。

ふらっと立ち寄ってみたいくなる居心地の良い空間と、多様な人々の活動や様々な体験を肌で感じることができる空間を提供し、ここに来るだけで、誰もがつながるきっかけを得られる。

園内にある施設と連携し、飲食機能をはじめとした魅力的な滞在空間を創出していきます。また、公園と美術館を楽しむためのサポート運営も充実させ、様々な人の公園における利用ニーズと、活動やアート体験を通じた多様なアート・カルチャーの機会を体現し、活動の輪を地域に還元していくことを目指します。

▶施設のビジョン 施設によって実現したい目標について

【創作】 1. 誰もがものを作る楽しさを体験できる

版画や工芸の分野はアートの中でも特に様々な機材を活用したり、多様な技法を駆使しながら表現に取り組みます。それらを中心とした「ものをつくる楽しさ」を、本格的な創作から気軽な体験まで、多様な人々が体験できることを目指します。

【学び】 2. 誰もが創造的な活動から学びを得られ、成長することができる

実際に手を動かしながら創作に取り組むことで技能の上達はもちろん、そこから全く新しい「学び」を得ることができると考えます。子どもたちはもちろん、初心者から上級者まで誰もが創作活動を通じて、この拠点で混ざり合い、お互いに学び合うことで新しい発見が生まれる環境を目指します。

【居場所】 3. 誰もが気軽に訪れる場所となり、美術や自然に囲まれた時間を過ごすことができる

創作する強い目的がなくても、パークミュージアムにおける居場所や拠点として、誰もが気軽に訪れることができる開かれた場となることで、創造的な環境から主体的に創作意欲が誘われ、創作的活動に参加したくなるような場づくりを目指します。

【交流】 4. 創造的な活動を通して、多様な人々が交流できる

拠点における創造的な活動を通じて、新たな人と人との繋がりやコミュニケーション、コミュニティなどの交流を創出することで、この拠点での取り組みを持続可能で価値ある、町田の「文化」として育んでいくことを目指します。

【共生】 5. 多様な価値観を認め合う共生社会の実現に寄与できる

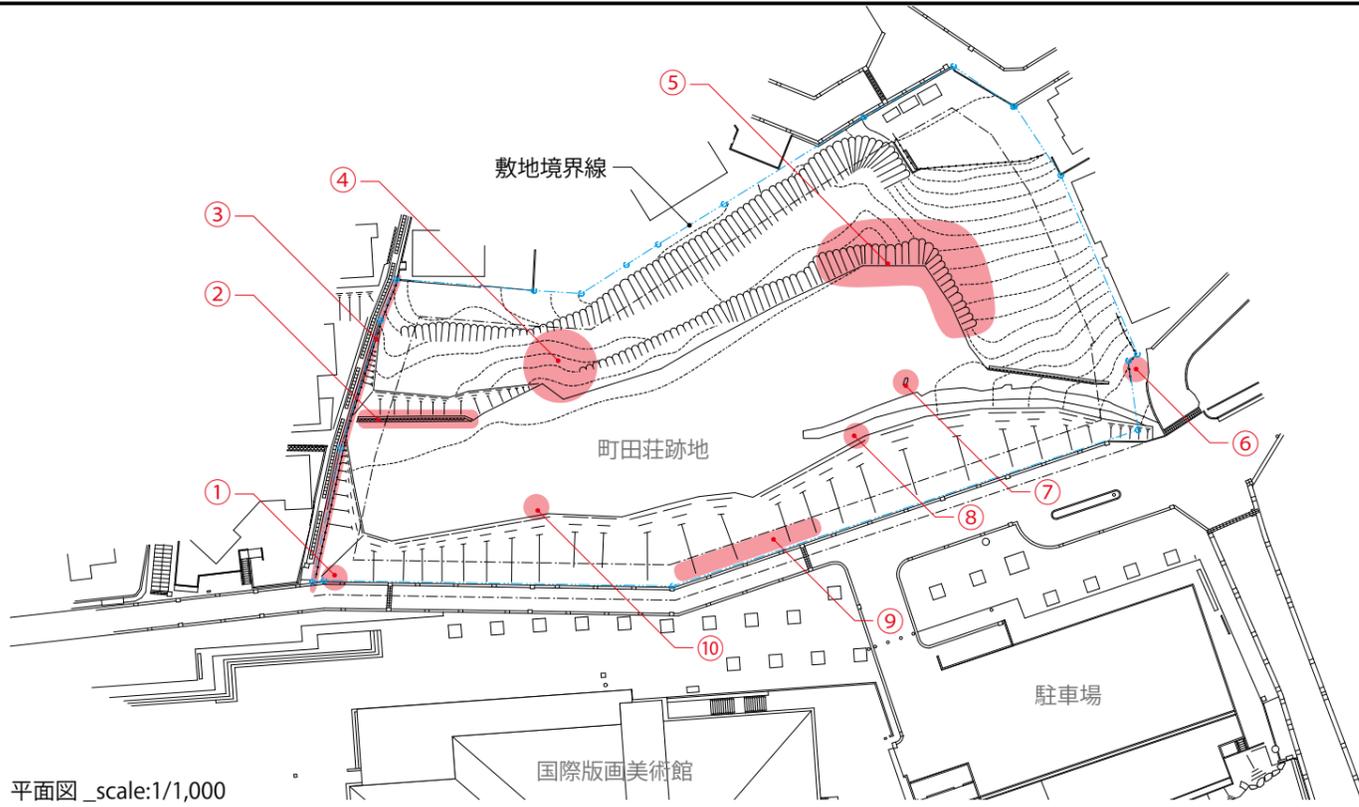
年齢や障がいの有無等にかかわらず、誰もが活躍できる共生社会を目指します。多様な人々が交流することで、障がい者の社会参画の推進だけでなく、「心のバリア」を取り除き、共生社会の実現を目指します。

2-2：計画の条件 (1) 計画敷地及び施設建設の条件

敷地の状況把握と共に、崖地の法的整理を行なった。



2-2：計画の条件 (1) 計画敷地及び施設建設の条件

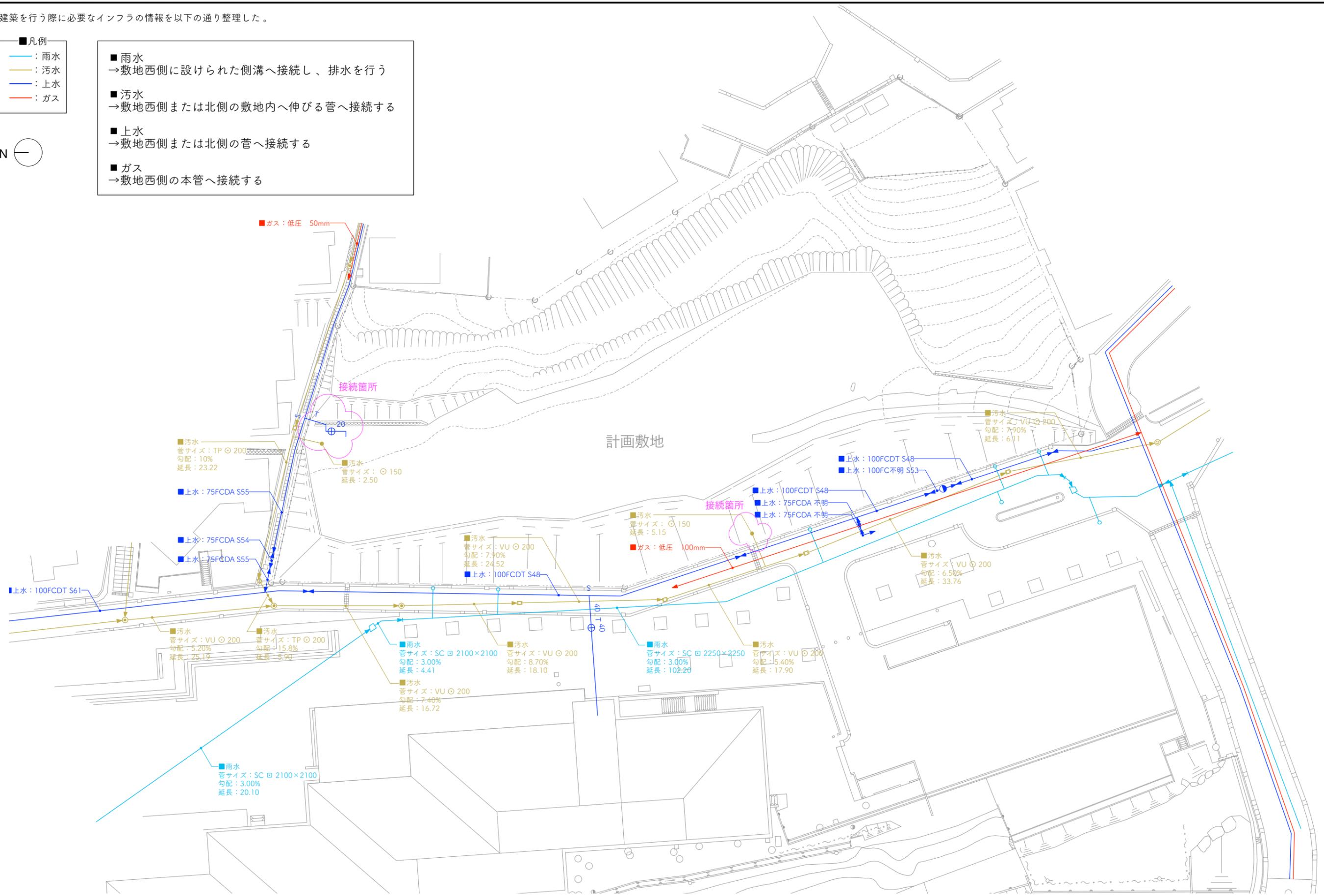


2-2：計画の条件 (1) 計画敷地及び施設建設の条件

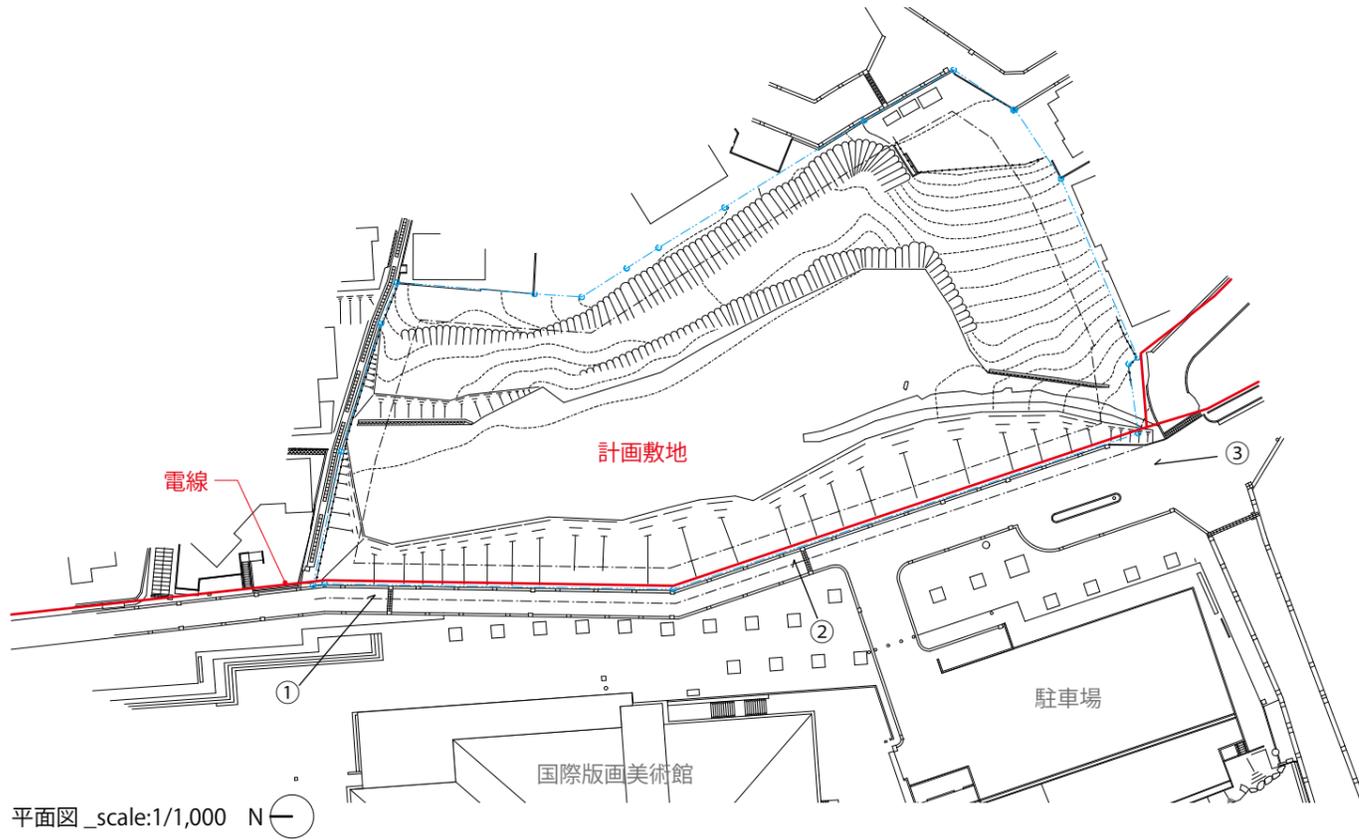
建築を行う際に必要なインフラの情報を以下の通り整理した。

- 凡例
- : 雨水
  - : 汚水
  - : 上水
  - : ガス

- 雨水  
→敷地西側に設けられた側溝へ接続し、排水を行う
- 汚水  
→敷地西側または北側の敷地内へ伸びる管へ接続する
- 上水  
→敷地西側または北側の管へ接続する
- ガス  
→敷地西側の本管へ接続する



2-2：計画の条件 (1) 計画敷地及び施設建設の条件



△写真①



△写真②



△写真③

A 案：電柱移設案	B 案：裏配線案	C 案：電線地中埋設案
<p>■メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電線の移設距離が近い→工事費が他案に比べて安い</li> </ul> <p>■デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・景観の改善なし</li> <li>・電柱設置のため、舗装のやりかえが必要</li> <li>・災害時の倒壊リスクあり</li> </ul>	<p>■メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・景観が改善される</li> </ul> <p>■デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害警戒区域への設置となる→崖地への対策が必要となる可能性あり</li> <li>・災害時の倒壊リスクあり</li> </ul>	<p>■メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施工時の影響がなくなる</li> <li>・景観が改善される</li> <li>・災害の被害が軽減される</li> </ul> <p>■デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事費が架空電線に比べて高い</li> <li>・工事の責任区分の設定が難しい</li> <li>・災害時の復旧が遅い</li> </ul>

## 2-2：計画の条件（2）関係する法規制等

（仮称）公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟に係る法規について、整理を行った。

## 敷地条件

敷地面積	5,212.83m <sup>2</sup>
都市計画区域区分	市街化区域
用途地域	第一種低層住居専用地域
高度地区	第一種高度地区
防火地域	22条地域
建蔽率	40%
容積率	80%

## 建築基準法\_集団規定

項目	条・項・号	タイトル	内容
用途制限	法第48条第1項	用途地域等	建築可能な用途を定める（詳細は下段参照）
容積率	法第52条第1項一号	容積率 （仮称）公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟	延べ床面積を 4,170.264m <sup>2</sup> (=5,212.83m <sup>2</sup> ×0.8) 以下としなければならない
建蔽率	法第53条第1項一号	建蔽率 （仮称）公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟	建築面積を 2,085.132(=5,212.83m <sup>2</sup> ×0.4) 以下としなければならない
絶対高さ制限	法第55条	第一種低層住居専用地域等内における 建築物の高さの限度	建築物の高さの限度である10mを超えてはならない
道路斜線	法第56条第1項一号	建築物の各部分の高さ	容積率20/10に該当するため、立上がり距離：20mかつ勾配1.25/1
隣地斜線	法第56条第1項二号	建築物の各部分の高さ	第一種低層住居専用地域のイに該当するため、立上がり距離：20mかつ勾配1.25/1
北側斜線	令第135条	北側高さ制限	前面道路の反対側に公園、広場、水面その他これらに類するものが、ある場合に該当するため
日影規制	法第56条の2	日影による中高層の建築物の高さの制限	第一種低層住居専用地域のため、2～3時間/1.5m

## 用途制限について

## 【第一種低層住居専用地域に建築可能な建築物】

## 第48条「用途地域等」

第一種住居専用地域に建築可能な建築物は以下の通りである（建築基準法別表第二(イ)項より）

- ・住宅、共同住宅、寄宿舎、下宿
- ・兼用住宅で、非住宅部分の床面積が、50m<sup>2</sup>以下かつ建築物の延べ面積の2分の1未満のもの
- ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校
- ・図書館等
- ・巡査派出所、公衆電話所等
- ・神社、寺院、教会等
- ・公衆浴場、診療所、保育所等
- ・老人ホーム、身体障害者福祉ホーム等
- ・老人福祉センター、児童厚生施設等
- ・600 m<sup>2</sup> 以下のものに限る
- ・建築物附属自動車庫
- ・600 m<sup>2</sup> 以下、1 階以下のものに限る

## 【上記に該当しない建築物の建築】

## 特定行政庁の許可が必要

上記以外の用途を建築する場合、建築基準法第48条第1項ただし書きの規定により、特定行政庁の許可が必要となる

## 第四十八条

第一種低層住居専用地域内においては、別表第二（イ）項に掲げる建築物以外の建築物は、建築してはならない。

ただし、特定行政庁が第一種低層住居専用地域における良好な住居の環境を害するおそれがないと認め、又は公益上やむを得ないと認めて許可した場合においては、この限りでない。

（仮称）公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟は上記に該当しない用途で建築する場合は許可手続きが必要となる

## 絶対高さ制限について

## 【高さが10mを超えて計画しなければならない建築物の建築】

## 特定行政庁の許可が必要

10mの高さを超えて建築する場合、建築基準法第55条第3項二号の規定により、特定行政庁の許可が必要となる

## 第五十五条

第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域又は田園住居地域内においては、建築物の高さは、十メートル又は十二メートルのうち当該地域に関する都市計画において定められた建築物の高さの限度を超えてはならない。

2 前項の都市計画において建築物の高さの限度が十メートルと定められた第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域又は田園住居地域内においては、その敷地内に政令で定める空地を有し、かつ、その敷地面積が政令で定める規模以上である建築物であつて、特定行政庁が低層住宅に係る良好な住居の環境を害するおそれがないと認めるもの高さの限度は、同項の規定にかかわらず、十二メートルとする。

3 前二項の規定は、次の各号の一に該当する建築物については、適用しない。

- 一 その敷地の周囲に広い公園、広場、道路その他の空地を有する建築物であつて、低層住宅に係る良好な住居の環境を害するおそれがないと認めて特定行政庁が許可したもの
- 二 学校その他の建築物であつて、その用途によつてやむを得ないと認めて特定行政庁が許可したもの
- 4 第四十四条第二項の規定は、前項各号の規定による許可をする場合に準用する。

（仮称）公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟は、10mの高さを超えて建築する場合は許可手続きが必要となる

## 2-2：計画の条件（2）関係する法規制等

前ページ同様、法規について整理を行った。建築基準法以外で、（仮称）公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟に関わる法規を記載する。

### その他関連法規

#### 【都市計画法】

##### 第53条「建築の許可」

都市計画施設(法11条)の区域または市街地開発事業(法12条)の施行区域に建築をしようとする者は、都道府県知事等の許可を受けなければならない。

↳ 「都市計画公園・緑地の整備方針」に位置づけられた優先整備区域以外の都市計画施設内の建築行為に該当（許可を得るための町田市の基準は以下の通り\_町田市HP原文ママ）

- ①建築物の敷地に係る都市計画公園及び都市計画緑地の事業の実施が、近い将来、見込まれていないこと。（「都市計画公園・緑地の整備方針（改定）（平成23年12月）」に位置づけられた優先整備区域以外の箇所に限る。）
- ②市街地開発事業（土地区画整理事業、市街地再開発事業など）等の支障にならないこと。
- ③階数が3以下であり、かつ、地階を有しないこと。
- ④主要構造部が木造、鉄骨造、コンクリートブロック造その他これらに類する構造であること。
- ⑤建築物が対象区域の内外にわたり存することになる場合は、将来において、対象区域内に存する部分を分離することができるよう、設計上の配慮をすること。

#### 【都市公園法】

##### 第4条「公園施設の設置基準」

都市公園に公園施設として設けられる建築物の建築面積の総計の当該都市公園の敷地面積に対する割合は、以下の通りとしなければならない。→建築面積/敷地面積≦2/100

↳ [緩和]  
都市公園法施工令 第6条第1項三号,4項「公園施設の建築面積の基準の特例が認められる特別の場合等」により以下の通り緩和を行うことが可能→建築面積/敷地面積≦10/100

##### 「都市公園の占用の許可」

##### 第6条

都市公園に公園施設以外の工作物その他の物件又は施設を設けて都市公園を占有しようとするときは、公園管理者の許可を受けなければならない。

3 第一項の許可を受けた者は、許可を受けた事項を変更しようとするときは、当該事項を記載した申請書を公園管理者に提出してその許可を受けなければならない。ただし、その変更が、条例（国の設置に係る都市公園にあつては、政令）で定める軽易なものであるときは、この限りでない。

##### 第7条

2 公園管理者は、前条第一項又は第三項の許可の申請に係る施設が保育所その他の社会福祉施設で政令で定めるもの（通所のみにより利用されるものに限る。）に該当し、

都市公園の占有が公衆のその利用に著しい支障を及ぼさず、かつ、合理的な土地利用の促進を図るため特に必要であると認められるものであつて、政令で定める技術的基準に適合する場合については、前項の規定にかかわらず、同条第一項又は第三項の許可を与えることができる。

##### 【都市公園法施行令】

##### 第十二条

3 法第七条第二項の政令で定める社会福祉施設は、次に掲げるものとする。

四 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成十七年法律第二百二十三号）第五条第一項に規定する障害福祉サービス事業（同条第七項に規定する生活介護、

同条第十二項に規定する自立訓練、同条第十三項に規定する就労移行支援又は同条第十四項に規定する就労継続支援を行う事業に限る。）の用に供する施設及び同条第二十七項に規定する地域活動支援センター

六 前各号に掲げるもののほか、都市公園ごとに、前各号に掲げるものに準ずる社会福祉施設として、地方公共団体の設置に係る都市公園にあつては当該地方公共団体が条例で定めるもの、国の設置に係る都市公園にあつては国土交通大臣が定めるもの

#### 【土砂災害防止法】

##### ①土砂災害警戒区域

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）に指定されると、土砂災害防止法にもとづき

- ・宅地建物取引業者は、当該宅地または建物の売買等にあたり、警戒区域内である旨について重要事項説明を行うこと
- ・要配慮者利用施設の管理者等は、避難確保計画を作成し、その計画に基づいて避難訓練を実施すること等が義務づけられます。

(※東京都建設局HPの原文ママ)

##### ②土砂災害特別警戒区

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に指定されると、土砂災害防止法にもとづき

- ・特定の開発行為に対する許可制
  - ・建築物の構造規制
- 等が行われます。

(※東京都建設局HPの原文ママ)

2-2：計画の条件 (2) 関係する法規制等

都市公園法に係る建築物の制限について、面積を算出し基準を満たしていることを確認した。

1) 計画建築物の建築面積

① 公衆便所	既存	28.33 m <sup>2</sup>
② 管理事務所	既存	31.68 m <sup>2</sup>
③ 東屋	既存	18.49 m <sup>2</sup>
④ ポンプ小屋	既存	11.90 m <sup>2</sup>
⑤ 東屋	既存	9.07 m <sup>2</sup>
⑥ 公衆便所	既存	33.22 m <sup>2</sup>
⑦ ひだまり荘	既存	196.23m <sup>2</sup>
⑧ 公衆便所	既存	45.74 m <sup>2</sup>
⑨ (仮称)公園案内棟 / 喫茶 / 版画工房 / アート体験棟	新築	1,000.00m <sup>2</sup>
⑩ 版画美術館	改修	2,955.84m <sup>2</sup>
⑪ (仮称) 工芸美術館	増築	1,195.00m <sup>2</sup>
⑫ エントランス	新築	60.00 m <sup>2</sup>
合計		5,585.50m <sup>2</sup>

2) 公園敷地面積 (暫定値)

143,673.16m<sup>2</sup>

3) 都市公園法第4条\_公園施設の設置基準

都市公園法で建築物の建築面積は公園面積の2%までとなっている。

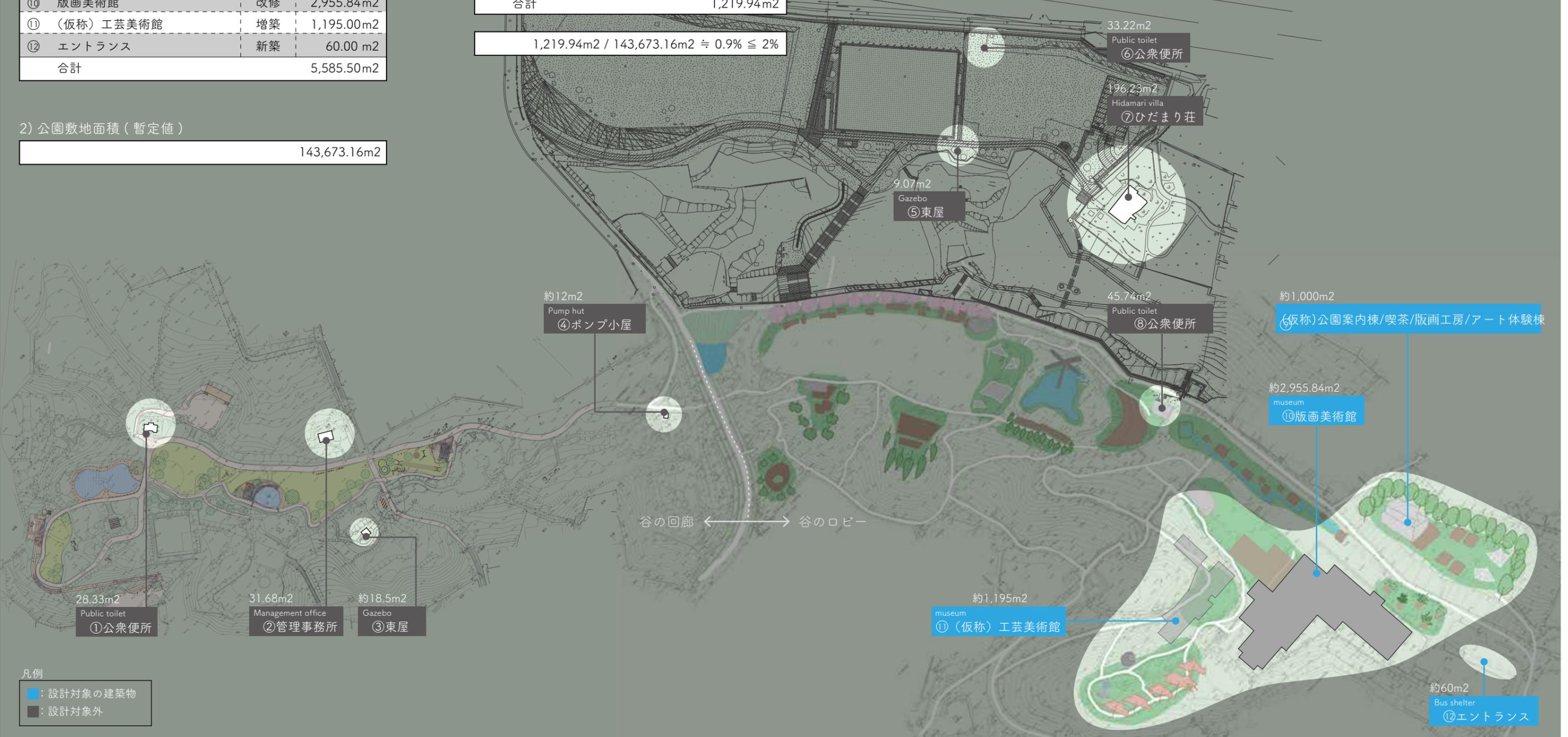
① 公衆便所	28.33 m <sup>2</sup>
② 管理事務所	31.68 m <sup>2</sup>
④ ポンプ小屋	11.90 m <sup>2</sup>
⑤ 東屋	9.07 m <sup>2</sup>
⑥ 公衆便所	33.22 m <sup>2</sup>
⑧ 公衆便所	45.74 m <sup>2</sup>
⑨ (仮称)公園案内棟 / 喫茶 / 版画工房 / アート体験棟	1,000.00m <sup>2</sup>
⑫ エントランス	60.00 m <sup>2</sup>
合計	1,219.94m <sup>2</sup>

$1,219.94m^2 / 143,673.16m^2 \approx 0.9\% \leq 2\%$

休養施設や教養施設の建築面積は公園面積の10%までとなっている。

③ 東屋	18.49 m <sup>2</sup>
⑦ ひだまり荘	196.23m <sup>2</sup>
⑩ 版画美術館	2,955.84m <sup>2</sup>
⑪ (仮称) 工芸美術館	1,195.00m <sup>2</sup>
合計	4,365.56m <sup>2</sup>

$4,365.56m^2 / 143,673.16m^2 \approx 3.08\% \leq 10\%$



## § 3 : 施設機能の考え方

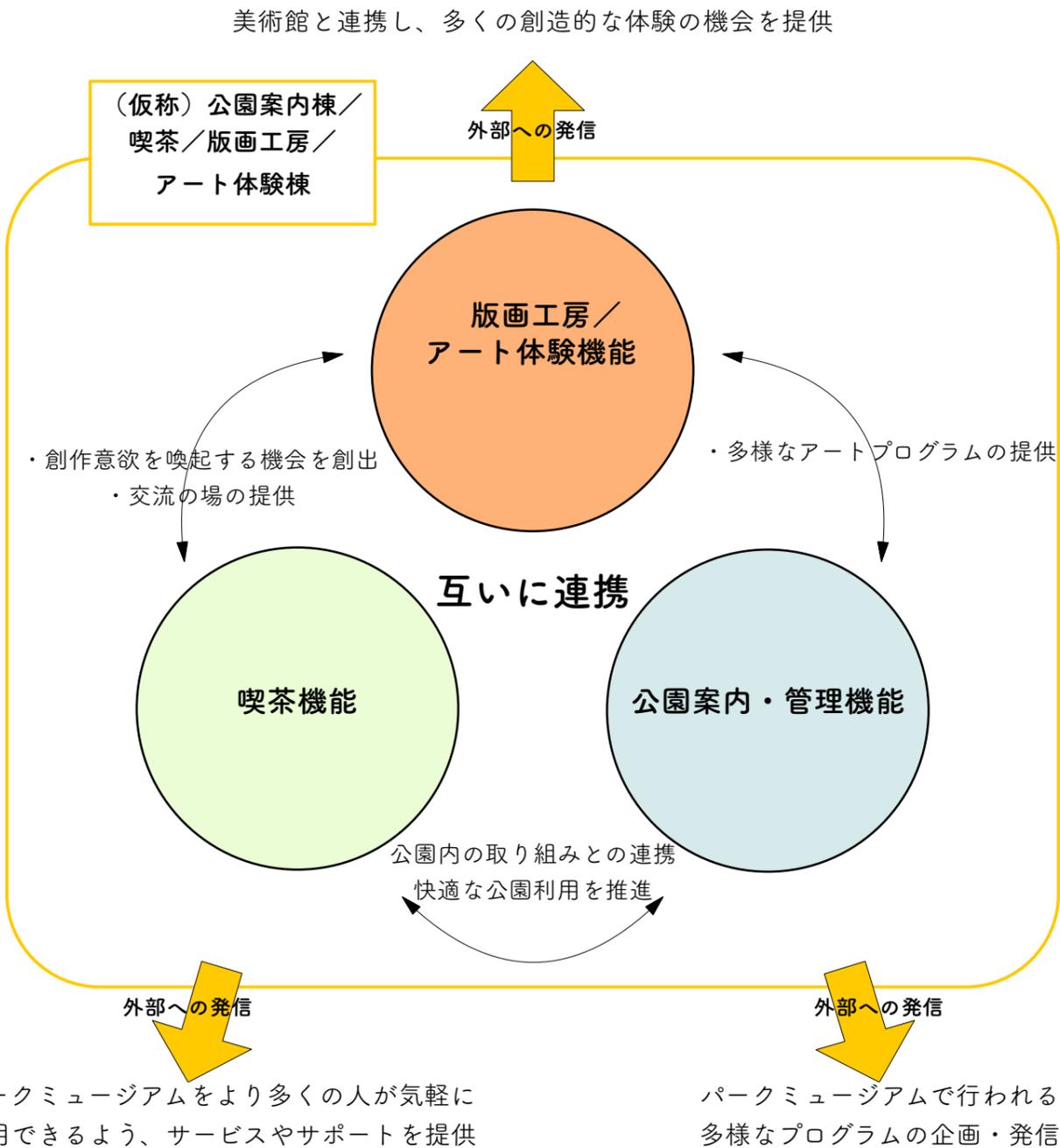
3-1 : 各機能の目指す役割について

▶各機能の連携について

(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟がもつ3つの機能は、お互いに連携し、相乗効果を引き出します。

例えば喫茶から工房が眺められることで創作活動に興味を持ってもらうきっかけを作りやすくしたり、パークミュージアム運営機能が施設内にあることで、公園での飲食企画の展開に対して柔軟に対応が可能になるなど、創造的な体験や学びを、今まで以上に荻ヶ谷公園に波及していきます。

その特徴を引き出すために、建物内のゾーニングは3つの機能が連携しやすいものとして計画を行います。



(1) 版画工房／アート体験機能の活動指針

版画工房／アート体験機能

主な機能：版画工房、陶芸体験スペース、ガラス体験スペース、アトリエ

1 ● 誰もがものを作る楽しさを体験できる場を提供します。

工芸や版画などの制作活動を初めて行う人でも、子どもから大人まで誰もが制作でき、ものを作る楽しさに触れることができる機会と場を提供します。

2 ● 利用者が快適に作品を制作でき、スキルを高められる場を提供します。

版画美術館のコンセプトの一つである“作る”機能を代表する、日本でも数少ない本格的な設備が備わった版画工房としての価値を継承・発展させ、利用者が快適に制作活動を行うことができる場を提供します。

3 ● 多様な人々の創作意欲を喚起します。

創作活動の場が広く開かれ、公園や施設の利用者から制作活動の様子が“見える”ことで、版画や工芸の制作への関心を高めたり、市民の創作意欲を喚起するきっかけ作りに取り組みます。

活動イメージ



親子で参加できるものづくりの体験の場になります。



現在の版画工房機能を引継ぎ、本格的な制作活動ができる場になります。



公園からのアクセスがよく、活動が外から見えることで、より多くの人々が制作活動に触れる機会を持つことができます。

4-1 : 各機能の目指す役割について

(2) 喫茶機能の活動指針

喫茶機能

主な機能：喫茶（店内飲食、テイクアウト）、障がい者の働く場

1 ● 誰もが気軽に訪れることができる居場所を提供します。

公園でより快適に過ごすための、休憩や情報収集の場所、または活動の場所として誰もが気軽に訪れ、利用することができる“居場所”としての空間を提供します。

2 ● 多様な人々が交流できる場を提供します。

客席スペース・飲食提供などを通じて、多様な人々同士の繋がりやコミュニケーション、コミュニティなどの交流の場の提供やサポートを担います。

3 ● パークミュージアムの他の機能と連携し、賑わいを創出します。

版画工房／アート体験機能との連携だけでなく、美術館や公園でのさまざまな活動と連動した飲食機能の運用を行うことで、賑わい創出に寄与します。

活動イメージ



誰もが気軽に訪れることができ、活気溢れるコミュニティの場所になります。



多様な人たちが活躍・交流できる場として喫茶を運用します。



テイクアウト飲食提供やテラス席の設置を行うことでパークミュージアムを楽しむための拠点としての役割を果たします。

(3) 公園案内・管理機能の活動指針

公園案内・管理機能

主な機能：パークミュージアム運営事務所

1 ● 公園で居心地良くを過ごすためのサポートを提供します。

パークミュージアムの入り口（窓口）として、受付や施設案内をはじめとした様々な対応や、利用者が居心地良く、公園で日常を過ごせるようなサポートを行います。

2 ● 多様な人々がつながり、一緒にパークミュージアムを盛り上げていくためのマネジメントを行います。

公園来園者・施設利用者や周辺地域の方々など、多様な人々が訪れ、活躍し、互いにつながっていく居場所となる運営を行います。

3 ● パークミュージアムの活動を発信し、地域とつながる取り組みを推進します。

パークミュージアムで生まれる様々な活動を、公園内だけでなく、まちなかにも発信していくことで、公園や施設に来る方だけでなく周辺にお住まいの方々や駅前地域との連携を推進します。

活動イメージ



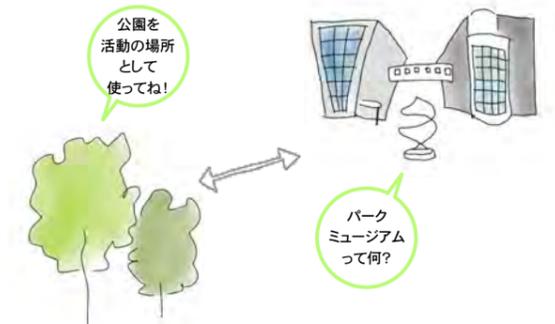
パークミュージアムで行われるさまざまな創作活動・アート体験等の「公園で〇〇したい」を実現する機会を創出します。



日常的に公園を使いたくなるサービスを提供し、パークミュージアムの情報発信や案内を行うことで多くの利用者が満足できる施設にします。



多様な人たちが活躍・交流できる場としてパークミュージアムをマネジメントします。



パークミュージアムの情報や案内だけでなく、人々の活動の様子も発信することで興味のタネをまき、地域とつながる取り組みを推進します。

## § 4 : 施設のあり方

## （仮称）公園案内/喫茶/版画工房/アート体験棟の考え方

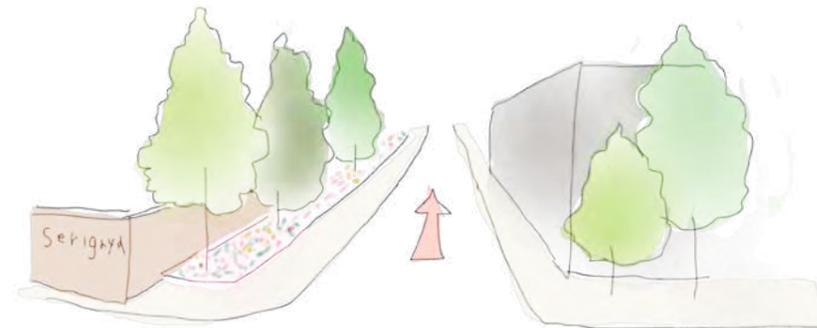
### パークミュージアムと一体の自然環境を感じられる創作体験拠点

（仮称）公園案内/喫茶/版画工房/アート体験棟はアートと触れ合える機会が生まれる場所となるよう、専門性の高いプログラムだけでなく、子どもも気軽に参加できるプログラムが充実したと場します。施設には多くの人々が行き交うようにパークミュージアム全体と連動し、公園と施設内が一体的な回遊性を作り出す計画を検討していきます。また、風や光が抜けていく、芹ヶ谷公園の豊かな自然環境を感じられるような建築となるよう検討を進めていきます。

### 配置計画

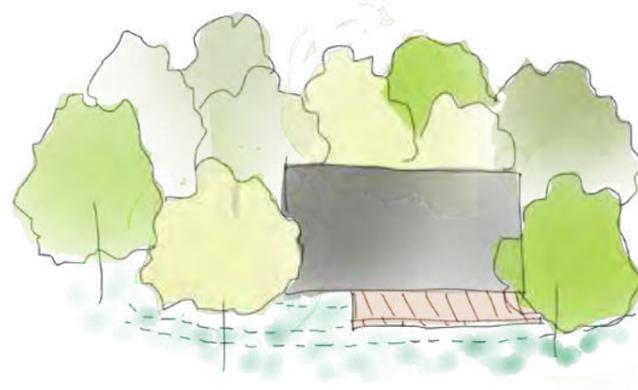
#### 公園の入り口となる開かれた場所

芹ヶ谷公園のエントランスの一つとして、来園者が気軽に訪れられるよう、内部の活動が外からも見える等の工夫を行い、周辺に対して開かれた配置とします。



#### 緑豊かな公園環境に馴染んだ建ち現れ方

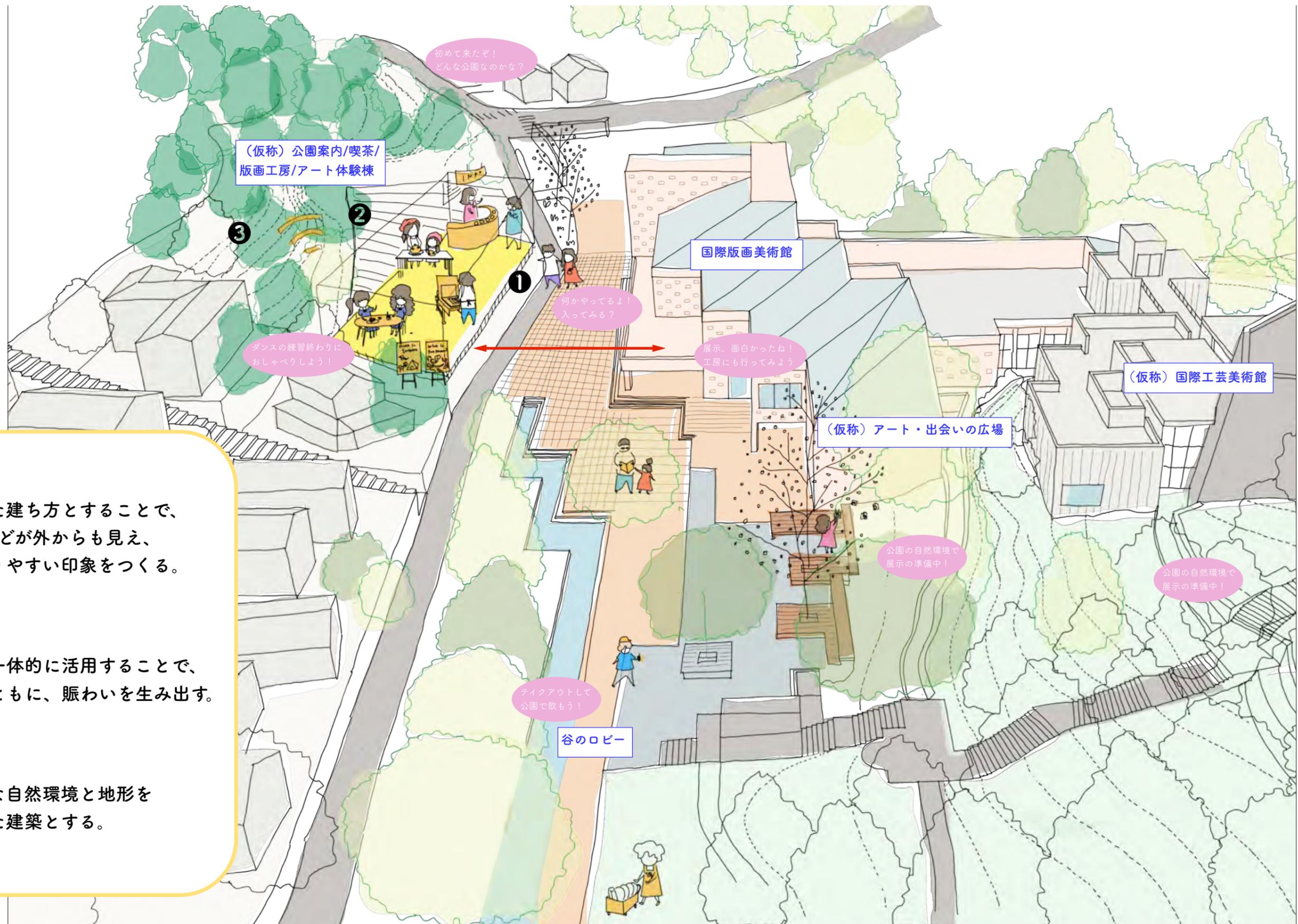
建物が緑豊かな公園に馴染み、周辺環境から浮いたものとならないように、住宅スケールを考慮したボリューム感として全体が建ち現れるよう配慮を行います。



#### 外からも様々な活動が見える建築

来園者がアート活動に興味をもってもらえるよう、内部での活動の様子が外から見える機能配置とします。また、施設に訪れた人がいろんな活動に会えるように、内部の部屋同士も、お互いの活動が見えるようにゾーニングを検討していきます。





（仮称）公園案内/喫茶/  
版画工房/アート体験棟

国際版画美術館

（仮称）国際工芸美術館

（仮称）アート・出会いの広場

谷のロビー

初めて来たぞ！  
どんな公園なのかな？

ダンスの練習終わりに  
おしゃべりしよう！

何かやってるよ！  
入ってみる？

展示、面白かったね！  
工房にも行ってみよう

公園の自然環境で  
展示の準備中！

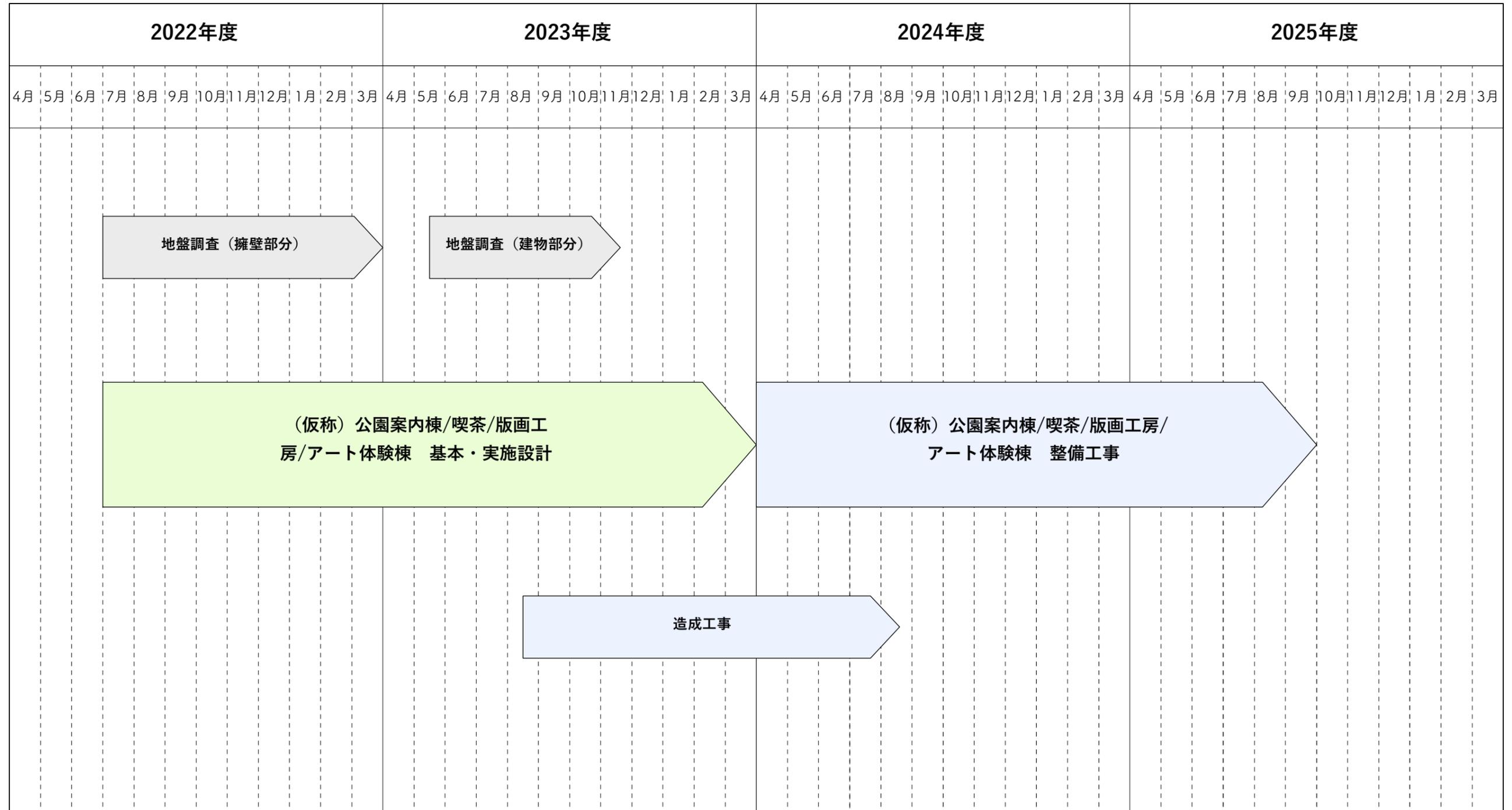
公園の自然環境で  
展示の準備中！

テイクアウトして  
公園で飲もう！

- ①** 公園入口に開いた建ち方とすることで、  
工房の活動などが外からも見え、  
誰もが気軽に入りやすい印象をつくる。
- ②** 外部空間を建物と一体的に活用することで、  
活動の幅を広げるとともに、賑わいを生み出す。
- ③** 敷地の豊かな自然環境と地形を  
生かした建築とする。

## § 5 : 計画推進に向けて

(仮称) 公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟の想定整備スケジュールについて整理を行なった。



## § 付属資料（専門家や利用者の意見等）

1 基本計画の策定にあたって 2 意見交換やアンケート結果

1 基本計画の策定にあたって

基本計画の策定にあたっては、これまでに（1）版画工房・アトリエ利用者（2）版画・陶芸・ガラス工芸等の専門家（3）子ども（4）国際版画美術館運営協議会（5）博物館運営委員会や喫茶けやき及び広く市民の方々と意見交換及びアンケートを実施し、いただいたご意見を計画へ反映しています。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

2 意見交換やアンケート結果

(1) 版画工房・アトリエ利用者

ア スケジュール

2021年 9月14日	「体験工房」の整備に向けてご意見をうかがう会
9月19日	
9月26日	
2021年12月16日	新しい工房の整備に向けていただいたご意見の報告会
12月19日	

イ 主な意見

【安全性の確保】

- ・版画は腐蝕液や引火性のものを使うため、安全性を確保してほしい
- ・版画工房の中に制作者以外が入ることは危険である。子どものための体験スペースを作るのであれば、別棟を作ってもらえると安心して制作できる

【現在の工房機能の維持】

- ・現状の版画工房の規模を縮小しないこと
- ・今の版画工房のスペースやプレス機などをそのまま維持してほしい

【工房の設計】

- ・現在の制作しやすい動線を保った設計をお願いしたい
- ・体験アトリエを全部ガラス張りでオープンスペースにするのは格好いいが、動線が混乱しないようお願いしたい

【子どもと体験】

- ・子どもが体験しているスペースを、ガラス張りにするなど外から見える形にするのは賛成である
- ・版画工房はこのままの形で（版画美術館内に）残してほしい
- ・工房・アート体験棟は、別棟で、子供が水着のまま版画制作体験ができるなど、子どもたちが自由にアートを経験できる空間として作って欲しい

【ビジョン】

- ・1か所でいろんな経験が出来るのはいいと思う
- ・国際版画美術館の名前に恥じない工房を作って欲しい

(2)版画・陶芸・ガラス工芸等の専門家

(3)工房のコンセプト、②他施設との連携、③創作スペースの共有、④活動の「見える化」、⑤プログラム、⑥安心・安全、工房の規模、⑦工房の設備や設置する機材、⑧工房の一般開放、⑨管理・運営体制 の9項目について、6人の専門家へ2回ずつヒアリングを行った

ア 対象者とスケジュール

分野	氏名（敬称略）	所属
版画（リトグラフ）	遠藤 竜太	武蔵野美術大学教授
版画（銅版画）	大矢 雅章	多摩美術大学准教授
陶芸	安諸 一郎	陶芸アトリエ主宰、元陶芸スタジオ講師
ガラス工芸	栗田 絵莉子	玉川大学芸術学部講師
教育普及	降旗 千賀子	元目黒区美術館学芸員 町田市立国際版画美術館運営協議会委員
教育普及	宮原 裕美	日本科学未来館科学コミュニケーション室室長代理、町田市立博物館運営委員会委員

氏名（敬称略）	1回目	2回目
遠藤 竜太	2021年 9月24日	2022年 2月25日
大矢 雅章	10月 3日	2月17日
安諸 一郎	10月25日	2月24日
栗田 絵莉子	10月26日	2月17日
降旗 千賀子	10月15日	3月 4日
宮原 裕美	11月 1日	2月25日

2 意見交換やアンケート結果

イ 専門家の意見を市が整理し、確認した方向性

- ・幅広い市民を対象に、はじめて触れる人や子どもから楽しめるプログラムを提供すること
- ・新たな利用者が参加しやすい環境づくりとすること
- ・版画については、現在の版画工房・アトリエと同じく、はじめての人から本格的に創作を行う人まで利用できる工房とすること
- ・描画スペースなど、共有できるものは共有し、スペースの有効活用を図ります。共有化は効率の良い空間利用ができると同時に、異なる表現方法の制作が見えることで、新たな興味や交流が生まれ、市民の創作活動が深まることが期待できます
- ・工房内の活動が外から見えることで、公園来園者が制作に興味をもったり、やってみようと思ったりの効果が得られます
- ・施設の活性化をはかるため、作品を発表できるスペースを設けることなども検討し、制作だけでなく創作活動全体を支援すること

(3) 子ども

ア 子どもセンター「まあち」にてインタビューを実施

- ・実施日 2021年10月21日
- ・質問内容 新しい工房への希望、アイデアの収集

イ 高ヶ坂小学校及び町田第二中学校の児童・生徒を対象にアンケートを実施

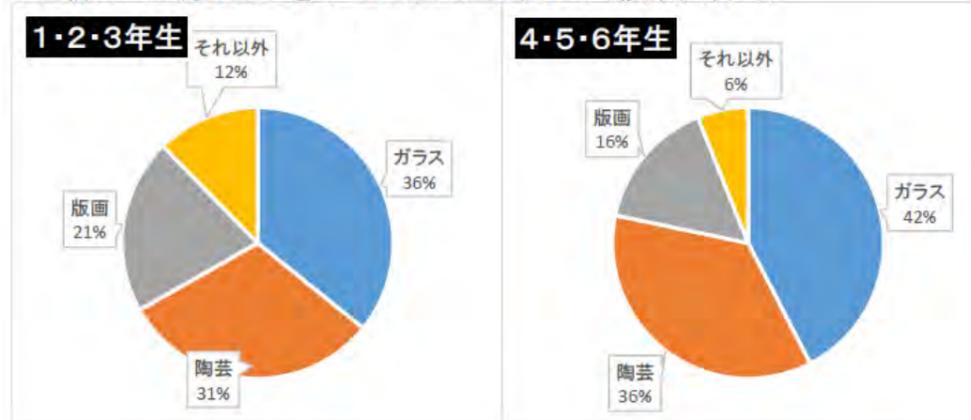
- ・実施日 ①高ヶ坂小学校 2月16日から2月25日（284名）  
②町田第二中学校 2月16日から2月22日（398名）

ウ 質問内容 ①芹ヶ谷公園に行ったことはありますか

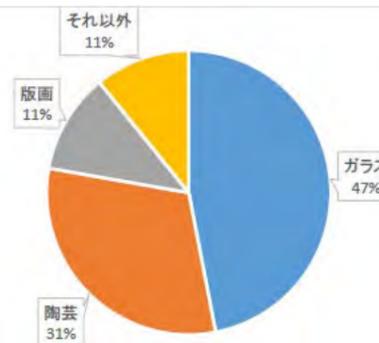
- ②国際版画美術館に行ったことはありますか
- ③新しい工房には、誰と行きたいですか
- ④新しい工房には、どんなときに行きたいですか
- ⑤新しい工房で、なにをやりたいですか

①高ヶ坂小学校

Q 新しい工房でなにをやりたいですか？（複数回答可）



②町田第二中学校



【ガラス】

- ・コップ（自分用、パパとママ用、プレゼント）、ネックレス、アクセサリ、スノードーム、日本のガラス財規が見たい、ガラスにお絵かき、お皿、置物、コップに絵を描く、色を付ける、吹きガラス、色を付ける、キーホルダー・ストラップ、風鈴、スタンドグラス等

【陶芸】

- ・お皿、コップ、茶碗、抹茶を飲むやつ、道具入れ、プレゼント、つぼ、花瓶、器、器に色を付ける、ろくろを使ってみたい等

【版画】

- ・洋服、バッグ、マスク、カレンダー、判子、プレゼント、道具を触ってみたい、オリジナルのものを作りたい、町の風景、自分が一番得意な絵、マイトートバッグ、マイTシャツ、有名な絵を刷ってみたい、リトグラフの表現が気になる、現代の人物などを浮世絵にする

## 2 意見交換やアンケート結果

### 【それ以外】

- ・ボシエット、アートを書きたい、絵の具で海や魚、折り紙、手芸、編み物、ペン立て、ピアス、木や紙の工作、写真立て、缶バッジ、プロの技を見てみたい、スニーカーなどにデザインしたものを印刷、オリジナルのぬいぐるみ、ミサンガ、日本画・海外画の鑑賞がしたい

### (4) 国際版画美術館運営協議会

- ア 開催日 ①2021年10月27日  
②2022年2月2日

#### イ 主な意見

- ・行政以外の組織と協働できるいい機会だと思う
- ・学校教育だけでなく、放課後の活動や単純に興味を持った子など、子ども全体で捉えて検討してほしい
- ・新しいアトリエは、教育普及に対する期待がとても大きい。充実したプログラムを作るために、人をきちんとつける必要がある
- ・工房については今後も「作る」という事を大事にしていきたい、ご意見なども市へお伝えしていきたい

### (5) 博物館運営委員会

- ア 開催日 2022年3月7日

#### イ 主な意見

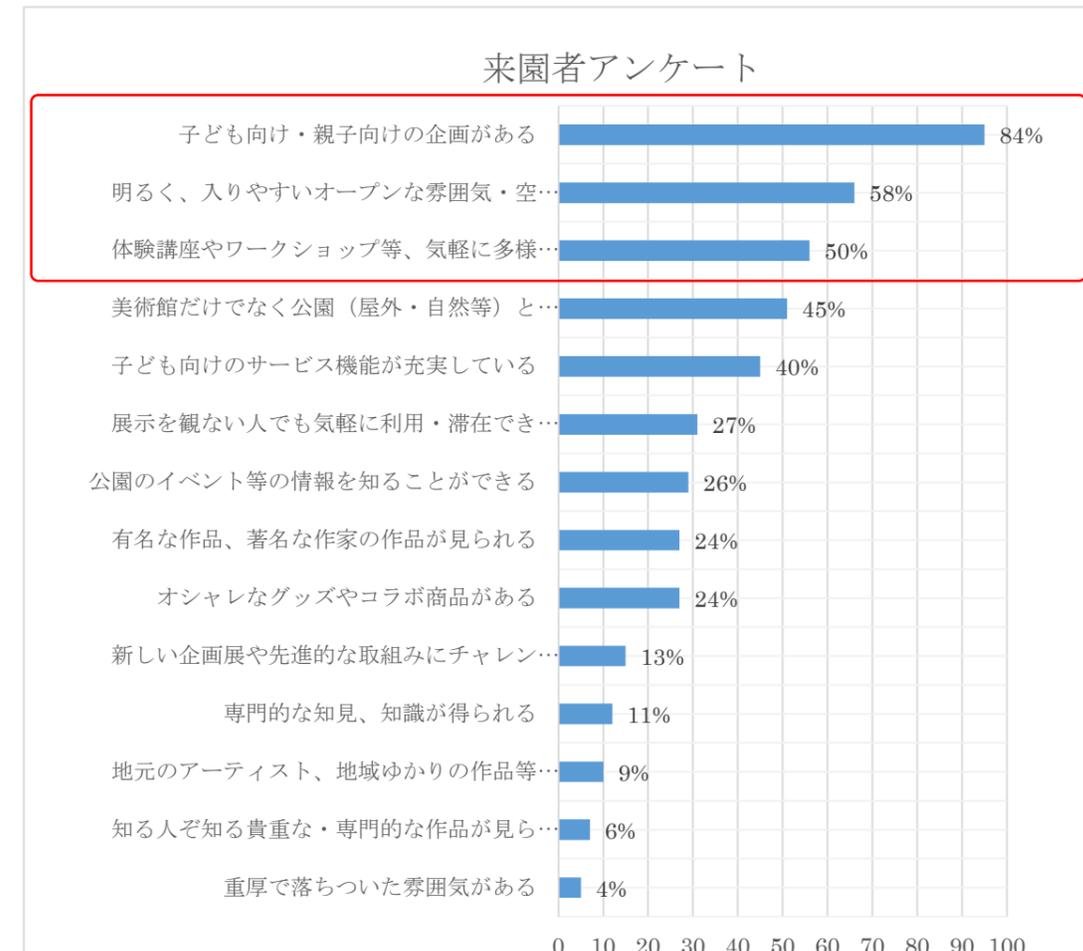
- ・プログラムの運営にあたっては、官民の関係性がフラットであると良い。民間事業者が主体的に運営できる部分も重要だと考えている。
- ・(仮称)公園案内棟/喫茶/工房・アート体験棟や国際工芸美術館など、箱を意識して区切りがちに見えるため、空間の連続性を大切にすることがある

### (6) アンケート

#### ア 来園者アンケート

さくらまつり2022の際に、芹ヶ谷公園に来園した方を対象とし、アンケートを実施しました。

「公園に来た時に、どんな美術館だったら入ってみたい、また訪れたいと思いますか」の質問に対して113名の方からご回答いただきました。



2 意見交換やアンケート結果

イ 町田市民アンケート調査（2020.11 実施、対象 3,000 人、有効回答率約 33%）

- ①文化芸術の鑑賞を促進する方策、文化芸術の活動を促進する方策は、  
いずれも次の2つが上位2傑
- ・住んでいる地域やその近くで鑑賞することができる（51.2%、41.6%）
  - ・魅力ある催しが行われる・多様なジャンルの催しが行われる（45.6%、34.0%）

- ②活動を促進する方策は、
- ・初心者向けの活動・気軽に参加できる活動が行われる、33.4%で続く。
  - ・さらに、回答者別に分析したところ、活動しなかった・できなかったグループにおいては、「初心者向けの活動・気軽に参加できる活動が行われる」が2位に入っており、新たに裾野を広げるにあたって検討すべき事項としている

- ③文化芸術に親しむ市民が増えるために必要な市の取り組みについては、
- ・「気軽に親しめる・楽しめる場づくり」が47.7%と最も高く、次いで
  - ・「公共施設を利用しやすくする」が30.4%
  - ・「体験や触れる機会の充実・提供」が30.0%となっている。

- ④文化芸術面で力を入れて欲しいことについては、
- ・「文化芸術の鑑賞機会や活動、催事等が充実している」が31.5%と最も高く、次いで
  - ・「美しい景観や自然が大切にされている」が26.6%
  - ・「子どものうちから多様な文化や芸術に触れられる機会が多い」が23.7%となっている。

- ・その他、美術館だけでなく公園と一体的に楽しめる 45%/展示を観ない人でも気軽に利用・滞在できる空間がある 27%/公園のイベント等の情報を知ることができる 26%/知る人ぞ知る貴重な作品を見られる 6%/重厚で落ち着いた雰囲気がある 4% 他

ウ 芹ヶ谷公園でやってみたい活動調査

（2019年8月24日から11月4日までに計6回実施、回答数649人）

※芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトパークミュージアムコンセプトブックより

- ・「アート・創作活動」や「飲食活動」が多く挙げられました。
- ・アンケート結果については以下の通りです。

